

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	医療と臨床心理学						
担当教員	室屋 賢士					科目ナンバ-	P33110
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	医療現場において臨床心理学がどのように活かされているかを学び、精神疾患などの知識のみならず具体的な臨床心理学的アプローチといった実践的な知識についても理解を深める。						
授業の概要	『医療』は臨床心理学が実践されている現場の一つである。本講義では、医療現場において働く臨床心理士ならびに公認心理師に求められる知識や具体的な臨床心理学的アプローチについて学習していく。また、医療の現場では、医師、看護師、その他様々な職種と関わり、連携していくことが求められる。そのため、本講義では、他職種連携についても取り扱う。						
到達目標	(1) 精神疾患の基礎的知識を説明することができる。 (2) 医療の現場で活かされている臨床心理学的知識、およびアプローチについて説明することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 本講義についての概要 第2回 医療現場において心理職に期待されること、役割について 第3回 医療現場で求められる知識① 精神疾患Ⅰ 第4回 医療現場で求められる知識② 精神疾患Ⅱ 第5回 医療現場で求められる知識③ 発達障害 第6回 医療現場で用いられる心理技法① 心理アセスメント(知能検査) 第7回 医療現場で求められる心理技法② 心理アセスメント(投映法) 第8回 医療現場で求められる心理技法③ 心理アセスメント(質問紙法) 第9回 医療現場で求められる心理技法④ 認知行動療法Ⅰ 第10回 医療現場で求められる心理技法⑤ 認知行動療法Ⅱ 第11回 医療現場で求められる心理技法⑥ その他の心理療法Ⅰ 第12回 医療現場で求められる心理技法⑦ その他の心理療法Ⅱ 第13回 他職種との連携 第14回 講義のまとめ 第15回 試験のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・講義で学習した内容について、参考書籍や論文を読むこと(学習時間2時間)。 ・メディアなどで取り上げられているメンタルヘルスなどに興味を持ち、積極的に調べてほしい(随時)。						
授業方法	パワーポイントにて資料を提示しながら講義を行う。また、いくつかの心理尺度を使用し、心理アセスメントを経験してもらう。						
評価基準と評価方法	試験：60% 授業態度(質疑応答などの積極的な授業参加ならびに平常点)：40%						
履修上の注意	・私語厳禁 ・病院臨床に興味・関心のある学生の受講を望む。						
教科書	特になし。参考資料についてはその都度、講義中に紹介する。						
参考書	その都度、講義中に紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学A						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P7304A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策						
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。						
到達目標	1) 大学院入試に必要な心理学について書かれた英語の長文を読んで理解できる【知識・理解】 2) 大学院入試に必要な心理学についての基礎的な知識について確認できる【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 心理学のアプローチ</li> <li>3. 心理学における問題</li> <li>4. Cognitive psychology: origins of memory</li> <li>5. Cognitive psychology: STM, LTM and duration</li> <li>6. Cognitive psychology: nature of memory</li> <li>7. Cognitive psychology: working memory</li> <li>8. Developmental psychology: Early social development</li> <li>9. Developmental psychology: attachment</li> <li>10. Developmental psychology: Bowlby's theory</li> <li>11. Developmental psychology: types of attachment</li> <li>12. Perception: Top down process</li> <li>13. Perception: Bottom up process</li> <li>14. Perception: Development</li> <li>15. Perception: Nature-Nurture debate</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとられず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。つまり、事前に日本語の概論書などで当該の箇所を読んで理解しておく必要がある。</p> <p>授業前学習：概論書での学習、英語長文の翻訳作業（3時間以上）。</p> <p>授業後学習：授業で指摘された点の復習等（1時間以上）。</p>						
授業方法	論文講読						
評価基準と評価方法	<p>課題（70%）、授業態度（30%）</p> <p>課題：授業での課題発表を総合的に評価する。</p> <p>授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。</p>						
履修上の注意	<p>日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。電子辞書は試験では使えない場合が多いため、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。英語で専門的な長文を講読する授業である。基礎的な高校、中学レベルの英文法に自信がない者は、事前にきちんと復習をしておく必要がある。</p> <p>大学院入試の受験勉強は孤独になりがちであるが授業で仲間をみつけて欲しい。</p>						
教科書	適宜紹介						
参考書	適宜紹介						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学B						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P7304B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策						
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。						
到達目標	(1) 大学院入試に必要な心理学について書かれた英語の長文を読んで理解できる【知識・理解】 (2) 大学院入試に必要な心理学についての基礎的な知識について確認できる【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション 2. Perception: Face recognition & Agnosia 3. Learning: Classical conditioning 4. Learning: Operant conditioning 5. Learning: Conditioning and behavior of animals 6. Social psychology: Conformity 7. Social psychology: Conformity to majority 8. Social psychology: Criticism and evaluation of conformity studies 9. Social psychology: Obedience to authority 10. Psychopathology: Definitions of abnormalities 1 11. Psychopathology: Definitions of abnormalities 2 12. Psychopathology: Biological approach 13. Psychopathology: Psychodynamic approach 14. Psychopathology: Behavioral approach 15. Psychopathology: Cognitive approach						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとられず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。つまり、事前に日本語の概論書などで当該の箇所を読んで理解しておく必要がある。 授業前学習: 概論書での学習、英語長文の翻訳作業(3時間以上)。 授業後学習: 授業で指摘された点の復習等(1時間以上)。						
授業方法	論文講読						
評価基準と評価方法	課題(70%)、授業態度(30%) 課題: 授業での課題発表を総合的に評価する。 授業態度: 授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する。						
履修上の注意	日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。電子辞書は試験では使えない場合が多いため、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。英語で専門的な長文を講読する授業である。基礎的な高校、中学レベルの英文法に自信がない者は、事前にきちんと復習をしておく必要がある。 大学院入試の受験勉強は孤独になりがちであるが授業で仲間をみつけて欲しい。						
教科書	適宜紹介						
参考書	適宜紹介						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P31020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カウンセリングの基礎的な考え方や技法について学び、その習得を目指す。						
授業の概要	カウンセリングに関する基礎的な考え方や技法について学び、コミュニケーション・スキルを向上させ、援助技法を習得する。ワークやロールプレイ（役割演技）などの演習やグループ・ディスカッションを通して全員が体験的に学びを深める中で、講師が適宜指摘や解説を加える。						
到達目標	1. カウンセリングの基礎的な考え方や技法について説明できる。【知識・理解】 2. コミュニケーション・スキルを活用した応答ができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 3. カウンセリングの基礎的な技法をロールプレイによる模擬カウンセリングの中で活用できる。【汎用的技能】 【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 講義についての概要 第2回 「カウンセリング」とは 第3回 カウンセリングの基本① 「コミュニケーション」とは 第4回 カウンセリングの基本② コミュニケーションのつながり 第5回 傾聴技法① 「傾聴」とは 第6回 傾聴技法② 言葉での応答 第7回 傾聴技法③ 言葉以外での応答 第8回 傾聴技法④ まとめ 第9回 質問技法① 2種類の質問 第10回 質問技法② 想像と質問 第11回 傾聴技法と質問技法 第12回 カウンセリングの実践① ものの見方 第13回 カウンセリングの実践② 相互作用 第14回 カウンセリングの実践③ まとめ 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：カウンセリングに関する書籍を読み、カウンセリングについてイメージしておく。（学習時間：60分） 授業後学習：講義で学んだ理論や技法の日常的な応用を試みる。また、これらが実際の臨床場面でどのように活用されているのかについて、書籍などを通じて理解を深める。（学習時間：120分）						
授業方法	資料を提示しながら講義を進めつつ、ワークやロールプレイなどの演習やグループ・ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	・演習やディスカッションへの取り組み 50%：（到達目標2. および3. に関する到達度の確認） ・試験 50%：※3回以上欠席した者は受験資格を失う（到達目標1. に関する到達度の確認） 課題に対するフィードバック ・演習やディスカッションにおいて生じた疑問には、その場ないし翌週に回答・解説する。 ・試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。						
履修上の注意	演習やグループ・ディスカッションが中心となるため、他の受講生の迷惑とならないよう遅刻・欠席は慎むこと。						
教科書	なし						
参考書	・『暮らしの中のカウンセリング入門 心の問題を理解するための最初歩』、神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科、北大路書房、ISBN 9784762829413 ・『プロのコウンセラーが教えるはじめての傾聴術』、古宮昇、ナツメ社、ISBN 9784816353475 ・『プロカウンセラーの聞く技術』、東山紘久、創元社、ISBN9784422112572						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P31020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カウンセリングの基礎的な考え方や技法について学び、その習得を目指す。						
授業の概要	カウンセリングに関する基礎的な考え方や技法について学び、コミュニケーション・スキルを向上させ、援助技法を習得する。ワークやロールプレイ（役割演技）などの演習やグループ・ディスカッションを通して全員が体験的に学びを深める中で、講師が適宜指摘や解説を加える。						
到達目標	1. カウンセリングの基礎的な考え方や技法について説明できる。【知識・理解】 2. コミュニケーション・スキルを活用した応答ができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 3. カウンセリングの基礎的な技法をロールプレイによる模擬カウンセリングの中で活用できる。【汎用的技能】 【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 講義についての概要 第2回 「カウンセリング」とは 第3回 カウンセリングの基本① 「コミュニケーション」とは 第4回 カウンセリングの基本② コミュニケーションのつながり 第5回 傾聴技法① 「傾聴」とは 第6回 傾聴技法② 言葉での応答 第7回 傾聴技法③ 言葉以外での応答 第8回 傾聴技法④ まとめ 第9回 質問技法① 2種類の質問 第10回 質問技法② 想像と質問 第11回 傾聴技法と質問技法 第12回 カウンセリングの実践① ものの見方 第13回 カウンセリングの実践② 相互作用 第14回 カウンセリングの実践③ まとめ 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：カウンセリングに関する書籍を読み、カウンセリングについてイメージしておく。（学習時間：60分） 授業後学習：講義で学んだ理論や技法の日常的な応用を試みる。また、これらが実際の臨床場面でどのように活用されているのかについて、書籍などを通じて理解を深める。（学習時間：120分）						
授業方法	資料を提示しながら講義を進めつつ、ワークやロールプレイなどの演習やグループ・ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	・演習やディスカッションへの取り組み 50%：（到達目標2. および3. に関する到達度の確認） ・試験 50%：※3回以上欠席した者は受験資格を失う（到達目標1. に関する到達度の確認） 課題に対するフィードバック ・演習やディスカッションにおいて生じた疑問には、その場ないし翌週に回答・解説する。 ・試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。						
履修上の注意	演習やグループ・ディスカッションが中心となるため、他の受講生の迷惑とならないよう遅刻・欠席は慎むこと。						
教科書	なし						
参考書	・『暮らしの中のカウンセリング入門 心の問題を理解するための最初歩』、神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科、北大路書房、ISBN 9784762829413 ・『プロのコウンセラーが教えるはじめての傾聴術』、古宮昇、ナツメ社、ISBN 9784816353475 ・『プロカウンセラーの聞く技術』、東山紘久、創元社、ISBN9784422112572						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング上級演習						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P3303B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	カウンセリングの理論にもとづいた高度なコミュニケーション・スキルを身につける。						
授業の概要	カウンセリングについて理論的に学びながら、応答技法を中心に体験的に学ぶ。ロールプレイでの会話実践を録音し、逐語録で振り返るとともにディスカッションを通して、さまざまな応答の可能性について相互にディスカッションしながら学ぶ。大学院への進学や就職先で活かすための高度なコミュニケーション・スキルを習熟することを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングで用いられる基本的な技法について説明できる。</li> <li>2. 知識として学んだ応答技法を会話の中で使いこなし、アクティブ・リスニングができるようになる。</li> <li>3. 会話のプロセスについて振り返り、流れについて客観的立場より解説できるようになる。</li> </ol>						
授業計画	第1回 授業のガイダンスおよびカウンセリングの倫理について 第2回 ベースラインとしてのロールプレイ実践と記録 第3回 かかわり技法と場の設定 第4回 応答技法 (1) 非言語的反応と反映技法の基本 第5回 応答技法 (2) 反映技法を深める 第6回 応答技法 (3) 質問技法の基本 第7回 応答技法 (4) より積極的に傾聴する 第8回 応答技法のまとめとロールプレイ記録 第9回 ベースラインの逐語録との比較およびディスカッション 第10回 介入技法 (1) 対決技法について学ぶ 第11回 介入技法 (2) 動機付けの低い状況への理解と対処 第12回 介入技法 (3) 葛藤状況への対処 (個人を対象としたアプローチ) 第13回 介入技法 (4) 葛藤状況への対処 (複数を対象としたアプローチ) 第14回 介入技法のまとめとロールプレイ記録 第15回 振り返りと総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学の関連書にて予習(学習時間：90分) 授業後学習：録音したロールプレイを逐語録におこし、レポートを作成する(学習時間：90分)						
授業方法	講義とロールプレイおよびグループ・ディスカッション						
評価基準と評価方法	平常点(ロールプレイやディスカッションへの参加態度など)50%、逐語録やレポート課題50% ロールプレイやディスカッション：講義の内容がロールプレイに適切に反映されているのかどうかについて評価。到達目標2に関する到達度の確認。 逐語録やレポート課題：レポートに講義の内容や適切な振り返りが反映されているのかについての評価。到達目標1、3に関する到達度の確認。						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループを作り、ロールプレイを中心に学ぶので、遅刻・欠席を極力しないこと。(欠席3回で不合格とします)</li> <li>2. ICレコーダーなど、録音できる携帯機器を準備し、操作に習熟しておくこと。</li> <li>3. 逐語録の作成やレポートの作成など、時間と手間のかかる作業を行う。</li> </ol>						
教科書	なし						
参考書	必要に応じて紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	家族心理学						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P43050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本社会における家族の心理の理解						
授業の概要	現代日本の家族は、社会と密接な関係を保ちつつ変化している。たとえば、少子化、晩婚化、離婚の増加、母親の就労、高齢化などである。本講義では、夫婦関係、親子関係を中心に、それらの現代的特徴と心理的影響について学習する。						
到達目標	家族の抱える問題は、家族内だけではなく現代社会と密接に関連することを理解すること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 家族の定義、普遍性と特殊性 第2回 恋愛と結婚 第3回 結婚難と結婚への志向性低下 第4回 夫婦の人間関係 第5回 個人化、個別化 第6回 子をめぐる大人同士の関係 第7回 育児ストレス 第8回 子どもにとっての家族 第9回 子どもの心の問題とその解決 第10回 食習慣にみる家族関係 第11回 住まい、地域社会と家族関係 第12回 家庭と経済 第13回 高齢社会の中の家族 第14回 質疑応答 第15回 後期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式 （アクティブ・ラーニングを一部含む）						
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）30％， 定期試験70％						
履修上の注意	座席指定						
教科書	「学びを人生へつなげる 家族心理学」 土肥伊都子 [編著] 保育出版社						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	感情・人格心理学／人格心理学						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	感情と人格について心理学の視点からその働きを学ぶ						
授業の概要	感情と人格について、その概念や心理学的な理解のあり方を学ぶ。感情はどのように生じてきて、それが日常生活のあり方にどのように影響するのか、人格はどのような過程を経て形成されるのか、人格の働きが対人関係や日常生活のあり方にどのように関係しているかを学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。</li> <li>感情が行動に及ぼす影響について概説できる。</li> <li>人格の概念及び形成過程について概説できる。</li> <li>人格の類型、特性等について概説できる。</li> <li>感情や人格のアセスメントの方法を理解している。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション：感情と人格について学ぶことの意義について</li> <li>感情の基礎理論</li> <li>感情と身体の関係</li> <li>感情と行動の相互関係(1)：促進的影響</li> <li>感情と行動の相互関係(2)：抑制的影響</li> <li>感情と日常生活への不適応</li> <li>感情のアセスメント</li> <li>人格とは何か</li> <li>人格の形成過程</li> <li>人格の理解(1)：類型論</li> <li>人格の理解(2)：特性論</li> <li>人格の理解(3)：力動論</li> <li>人格と日常生活への不適応</li> <li>人格のアセスメント</li> <li>授業のまとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと（60分）。</p> <p>授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（60分）。</p>						
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。						
評価基準と評価方法	到達目標の達成度と、発言やディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度などの授業時における学びに取り組む姿勢とを総合的に評価する。評価の配点は、期末試験（到達目標の達成度を評価）70%、平常点（リアクションペーパー及び学びに取り組む姿勢を評価）30%とする。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学校と臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P33120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	教育的課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	学校で起きているさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。学校という集団での生活に関わる身近なテーマ、またいじめや不登校といった教育的課題と介入に関する臨床心理学的理論やモデルを紹介し、素材や事例を用いて考え、理解を深めます。ワークや発表を通じて自らの考えや理解した内容を言語化し、その成果を共有します。						
到達目標	(1)教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。【知識・理解】 (2)教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。【知識・理解】 (3)授業から得た理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用したり、他者と共有することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 導入 ~学校とは何か~ 第2回 学校集団の心理(1) ~集団としての学校~ 第3回 学校集団の心理(2) ~“空気”としての集団~ 第4回 いじめの心理(1) ~いじめとは何か 定義と実態、対策の変遷~ 第5回 いじめの心理(2) ~いじめはなぜ起きるのか 主要な理論的モデル~ 第6回 いじめの心理(3) ~いじめに対して何ができるか 集団モデルによる理解と介入~ 第7回 不登校の心理(1) ~不登校とは何か 不登校の定義と実態、対策の変遷~ 第8回 不登校の心理(2) ~不登校というつながり方~ 第9回 不登校の心理(3) ~不登校の終わり~ 第10回 学ぶことと心理(1) ~情緒的体験としての学び~ 第11回 学ぶことと心理(2) ~特別支援というつながり~ 第12回 学ぶことと心理(3) ~学ぶための環境~ 第13回 スクールカウンセラーの仕事 第14回 調査実践課題発表 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：参考書の購読(1時間)。 授業後学習：課題(1時間)。						
授業方法	講義、演習(プレゼンテーション、ディスカッション)。						
評価基準と評価方法	期末試験(持ち込み可 40%)：到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 平常点(授業への参加・貢献、授業レポート、課題、素材カード 60%)：到達目標(3)に関する到達度の確認。 課題：①授業内ワークのまとめと発表、②活動実践のまとめと発表、③レポート作成、④素材カード ※①から③から1つ以上を選択すること。④は任意選択とする。						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習・言語心理学A／学習心理学						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学習に関わる心の仕組み						
授業の概要	学習とは、経験を通して行動や知識が変化することを指します。私たちは環境に適応するために学習をします。たとえば、危険を察知して逃げるための情報、学校等で獲得するさまざまな知識、他者とうまくやっていくためのふるまい方や行動等の獲得も学習を通じて行われます。講義では、このよう学習を可能にする心の仕組みについて解説します。						
到達目標	1) 人が学ぶ過程を理解することができる【知識・理解】 2) ①人の行動が変化する過程が理解できるようになる【知識・理解】 3) 日常の様々な学習場面を理論と照らし合わせて考えられるようになる【知識・理解】 ①は公認心理師カリキュラムにおける大項目						
授業計画	1. 学習心理学とは 2. 古典的条件付け1 3. 古典的条件付け2 4. オペラント条件付け1 5. オペラント条件付け2 6. 学習によらない行動変化：生得的反応 7. 知識獲得のメカニズム：記憶1 8. 知識獲得のメカニズム：記憶2 9. 学習意欲1 10. 学習意欲2 11. 心理臨床と学習心理学 12. 学習指導と学習心理学 13. 学習障害と学習心理学 14. まとめと試験 15. 試験のおさらい						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書をしっかり読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（1時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 5回の欠席で、受講資格を失う。 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールでの問い合わせは受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	太田信夫・中條和光(2019)学習心理学. 北大路書房. ISBN-10: 4762830488						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習・言語心理学B						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1203B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	言語獲得と発達の仕組み						
授業の概要	私たちは母語である日本語を自然に獲得してきました。しかし、外国語となるとそうはいきません。なぜ、母語は簡単で外国語は難しいのでしょうか。赤ちゃんのころからまわりの大人がしゃべっているのを聞いているだけでことばは自然と学習されますが、なぜそのようなことが可能なのでしょうか。この講義では、言語獲得と発達の仕組みについて考えます。						
到達目標	1) ①言語の習得における機序について理解できるようになる【知識・理解】 2) 言語に関する理論と研究について知ることができる【知識・理解】 3) 社会的相互作用を通じた言語獲得について説明できるようになる【知識・理解】 4) 言語獲得の生得的メカニズムについて説明できるようになる【知識・理解】 ①は公認心理師カリキュラムの大項目。						
授業計画	1. 言語発達とはなにか 2. 前言語期1 3. 前言語期2 4. 音韻の発達 5. 語彙の獲得 乳幼児期 6. 語彙の獲得 児童期 7. 文法の発達 8. 形態素の発達 9. 語用論の発達 10. 言語発達における差：個人差 11. 言語発達における差：デモグラフィックス 12. バイリンガルの言語発達1 13. バイリンガルの言語発達2 14. まとめと期末試験 15. 期末試験のおさらい						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書を読み込んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックの予習（1時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 5回の欠席で、受講資格を失う。 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	岩立志津夫・小椋たみ子(2017)よくわかる言語発達 (改定新版). ミネルヴァ書房. ISBN-10: 4623080331 *これ以前の版もありますが、2017年以降の「改定新版」を購入してください。						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P0104A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習B」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	1. 心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。【汎用的技能】 2. グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。【汎用的技能】 3. 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。【知識・理解】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション(Pa) (Pb) 本を読み発表する(1) (Pc) (Pd) (指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第3回 図書館オリエンテーション(Pc) (Pd) 本を読み発表する(1) (Pa) (Pb) 第4回 本を読み発表する(2) (まとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 教科書を読みまとめる(1) (同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第6回 質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第7回 教科書を読みまとめる(2) (各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第8回 教科書を読みまとめる(3) (班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第9回 教科書を読みまとめる(4) (作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回 調査計画の決定(1) (班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回 調査計画の決定(2) (各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回 発表資料の作成(1) (各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 発表資料の作成(2) (発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回 調査計画の発表(1) (各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回 調査計画の発表(2)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。（学習時間：90分）						
授業方法	演習：各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点（60%）：到達目標1の達成度確認 授業態度（20%）：到達目標1、2の達成度確認 発表資料と発表（20%）：到達目標3の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編 2016 暮らしの中のカウンセリング入門 - 心の問題を理解するための最初歩 北大路書房 ISBN-10: 4762829412 永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P0104A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習B」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	1. 心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。【汎用的技能】 2. グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。【汎用的技能】 3. 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。【知識・理解】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 本を読み発表する(1)(Pc)(Pd)(指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第3回 図書館オリエンテーション(Pc)(Pd) 本を読み発表する(1)(Pa)(Pb) 第4回 本を読み発表する(2)(まとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 教科書を読みまとめる(1)(同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第6回 質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第7回 教科書を読みまとめる(2)(各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第8回 教科書を読みまとめる(3)(班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第9回 教科書を読みまとめる(4)(作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回 調査計画の決定(1)(班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回 調査計画の決定(2)(各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回 発表資料の作成(1)(各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 発表資料の作成(2)(発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回 調査計画の発表(1)(各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回 調査計画の発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。(学習時間：90分) 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間：90分)						
授業方法	演習：各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%)：到達目標1の達成度確認 授業態度(20%)：到達目標1、2の達成度確認 発表資料と発表(20%)：到達目標3の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編 2016 暮らしの中のカウンセリング入門 - 心の問題を理解するための最初歩 北大路書房 ISBN-10: 4762829412 永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P0104A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習B」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	1. 心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。【汎用的技能】 2. グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。【汎用的技能】 3. 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。【知識・理解】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 本を読み発表する(1)(Pc)(Pd)(指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第3回 図書館オリエンテーション(Pc)(Pd) 本を読み発表する(1)(Pa)(Pb) 第4回 本を読み発表する(2)(まとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 教科書を読みまとめる(1)(同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第6回 質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第7回 教科書を読みまとめる(2)(各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第8回 教科書を読みまとめる(3)(班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第9回 教科書を読みまとめる(4)(作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回 調査計画の決定(1)(班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回 調査計画の決定(2)(各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回 発表資料の作成(1)(各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 発表資料の作成(2)(発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回 調査計画の発表(1)(各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回 調査計画の発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。(学習時間：90分) 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間：90分)						
授業方法	演習：各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%)：到達目標1の達成度確認 授業態度(20%)：到達目標1、2の達成度確認 発表資料と発表(20%)：到達目標3の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編 2016 暮らしの中のカウンセリング入門 - 心の問題を理解するための最初歩 北大路書房 ISBN-10: 4762829412 永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P0104A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう						
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習B」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。						
到達目標	1. 心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。【汎用的技能】 2. グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。【汎用的技能】 3. 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。【知識・理解】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 本を読み発表する(1)(Pc)(Pd)(指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第3回 図書館オリエンテーション(Pc)(Pd) 本を読み発表する(1)(Pa)(Pb) 第4回 本を読み発表する(2)(まとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 教科書を読みまとめる(1)(同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第6回 質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第7回 教科書を読みまとめる(2)(各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第8回 教科書を読みまとめる(3)(班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第9回 教科書を読みまとめる(4)(作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回 調査計画の決定(1)(班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回 調査計画の決定(2)(各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回 発表資料の作成(1)(各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 発表資料の作成(2)(発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回 調査計画の発表(1)(各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回 調査計画の発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：教科書として指定する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また興味を持った心理学に関する本を読み進める。(学習時間：90分) 授業後学習：発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間：90分)						
授業方法	演習：各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%)：到達目標1の達成度確認 授業態度(20%)：到達目標1、2の達成度確認 発表資料と発表(20%)：到達目標3の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編 2016 暮らしの中のカウンセリング入門 - 心の問題を理解するための最初歩 北大路書房 ISBN-10: 4762829412 永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P0104B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう						
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。						
到達目標	1. グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2. 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。【汎用的技能】 3. 心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。【知識・理解】【汎用的技能】 4. 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 質問紙の作成(1) (「基礎演習A」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第2回 質問紙の作成(2) (質問紙を完成させ、提出する) 第3回 質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第4回 読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第6回 データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第7回 データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表や散布図など作成し、その特徴を分析する) 第8回 データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第9回 論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回 論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回 論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回 発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 論文と発表ファイルの個別指導 第14回 調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回 調査研究発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。(学習時間: 90分) 授業後学習: 調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間: 90分)						
授業方法	演習: 各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%): 到達目標1の達成度確認 授業態度(20%): 到達目標1の達成度確認 発表資料と発表(20%): 到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ	P0104B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう						
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。						
到達目標	1. グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2. 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。【汎用的技能】 3. 心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。【知識・理解】【汎用的技能】 4. 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 質問紙の作成(1) (「基礎演習A」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第2回 質問紙の作成(2) (質問紙を完成させ、提出する) 第3回 質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第4回 読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第6回 データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第7回 データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表や散布図など作成し、その特徴を分析する) 第8回 データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第9回 論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回 論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回 論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回 発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 論文と発表ファイルの個別指導 第14回 調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回 調査研究発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。(学習時間: 90分) 授業後学習: 調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間: 90分)						
授業方法	演習: 各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%): 到達目標1の達成度確認 授業態度(20%): 到達目標1の達成度確認 発表資料と発表(20%): 到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P0104B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう						
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。						
到達目標	1. グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2. 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。【汎用的技能】 3. 心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。【知識・理解】【汎用的技能】 4. 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 質問紙の作成(1) (「基礎演習A」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第2回 質問紙の作成(2) (質問紙を完成させ、提出する) 第3回 質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第4回 読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第6回 データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第7回 データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表や散布図など作成し、その特徴を分析する) 第8回 データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第9回 論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回 論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回 論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回 発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 論文と発表ファイルの個別指導 第14回 調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回 調査研究発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。(学習時間: 90分) 授業後学習: 調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間: 90分)						
授業方法	演習: 各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%): 到達目標1の達成度確認 授業態度(20%): 到達目標1の達成度確認 発表資料と発表(20%): 到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P0104B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう						
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。						
到達目標	1. グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2. 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。【汎用的技能】 3. 心理学の学術論文形式に沿った論文をWordで作成できる。【知識・理解】【汎用的技能】 4. 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 質問紙の作成(1) (「基礎演習A」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第2回 質問紙の作成(2) (質問紙を完成させ、提出する) 第3回 質問紙への回答、データの入力(全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第4回 読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第5回 調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第6回 データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第7回 データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表や散布図など作成し、その特徴を分析する) 第8回 データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第9回 論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回 論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回 論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回 発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回 論文と発表ファイルの個別指導 第14回 調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回 調査研究発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 教科書や自身の調査に関する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。またExcelの基本的な操作方法ができるように練習を行う。(学習時間: 90分) 授業後学習: 調査で得たデータの入力やExcelによるデータの整理、Wordを用いた論文の作成や修正を行う。加えて、発表や授業内で出たコメントの内容を踏まえて、発表の振り返りを行うとともに、文献の見直しや提出物の修正を行う。(学習時間: 90分)						
授業方法	演習: 各回、教科書を用いた準備学習や授業時に配布するワークシートの取り組みを基に、個人での発表、グループディスカッション、グループ内での発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点(60%): 到達目標1の達成度確認 授業態度(20%): 到達目標1の達成度確認 発表資料と発表(20%): 到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。						
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。						
教科書	永房典之編著 2008 なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理 金子書房 ISBN-10: 4760830286						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	行動観察法						
担当教員	松元 佑					科目ナンバ-	P22020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	行動観察法について学ぶなかで、心理学における研究の取り組み方や考え方について理解すること。						
授業の概要	この授業では、行動観察法を習得することを目的とする。 具体的には、授業で学んだ行動観察法をグループ演習などで取り組んでいき、観察したものを分析し、レポートとしてまとめていく。						
到達目標	行動観察の目標設定をして、実際に観察をする。観察したものは分析し、考察をしてレポートとしてまとめることが出来るようになる。						
授業計画	第1回：行動観察法について（授業の概要と進め方について） 第2回：心理学における研究法とは① 第3回：心理学における研究法とは② 第4回：時間見本法の理論と手法 第5回：事象見本法の理論と手法 第6回：参与観察の理論と手法 第7回：観察法の歴史（日誌法・臨床法について） 第8回：行動観察の実施について（観察テーマの設定と予備観察、実施の留意点） 第9回：心理学における研究倫理について 第10回：データのまとめ方①（研究の信頼性、妥当性とは？） 第11回：データのまとめ方②（基本的な統計） 第12回：レポート作成の仕方について 第13回：グループ実習① 第14回：グループ実習② 第15回：これまでの講義のまとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて予習し、授業の最後に示すキーワードについて、指定した参考書籍等によって下調べをすること（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、次回の授業で担当教員に提出する（学習時間：2時間）						
授業方法	1回目から12回目までは基本的に講義形式を用いる。13回目と14回目はグループで課題に取り組むこととする（グループ演習）。具体的には、グループで取り組んだ課題のデータを分析し、まとめて授業内でグループ発表を実施する予定である。発表したものは課題レポートとして提出する。						
評価基準と評価方法	平常点（練習課題や質疑応答等）40%：平常点は講義への参加・授業態度、練習課題の取り組み方を元に算出する。 期末テスト60%						
履修上の注意	授業の配布資料は、各回の出席者のみ配布する。 欠席した者は、次回の授業で配布する。（担当教員に申し出ること。） グループ演習を実施するため、協力して課題に取り組むこと。 授業回数の3分の2以上（6回以上）の出席に満たない者は期末試験の受験資格を失うものとする。 15分以上の遅刻は2分の1欠席として計算する。  授業計画は受講生の理解度に合わせて適宜変更する。						
教科書							
参考書	『心理学基礎演習Vol.3 観察法・調査的面接法の進め方』、松浦均・西口利文編、ナカニシヤ出版、ISBN978-4-7795-0290-3 『心理学マニュアル 観察法』、中澤潤・大野木裕明・南博文編、北大路書房、ISBN4-7628-2076-8						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心のふしぎ						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P01010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の入門講座						
授業の概要	日常生活における身近な事柄からいわゆる心の病まで、心をめぐって生じるさまざまな事象について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。 臨床心理学に関連する資格や職業についても学びます。 ワークや発表を通じて自らの考えや理解した内容を言語化し、その成果を共有します。						
到達目標	(1)身近な出来事や社会的現象について、臨床心理学的な観点から考え説明することができる。【知識・理解】 (2)授業を通じて得た理解を、自己理解や日常生活上の諸課題の理解に応用することができる、また、それを言語化到達目標し他者と共有することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 導入 ～心のふしぎ道の歩み方～ 第2回 心のしくみ(1) ～なぜうっかりしてしまうのか?～ 第3回 心のしくみ(2) ～夢うらないは本当か?～ 第4回 心のしくみ(3) ～なぜ自分にうそをつくのか?～ 第5回 心のそだち(1) ～みんなおっぱいで大きくなった!～ 第6回 心のそだち(2) ～自分探してどうということ?～ 第7回 心をわかる(1) ～心の重さははかれるか?～ 第8回 心をわかる(2) ～心を病むとはどうということか?～ 第9回 心をわかる(3) ～心が癒えるとはどうということか?～ 第10回 心のつながり(1) ～心はどうやってつながるのか?～ 第11回 心のつながり(2) ～つながりの破壊としての犯罪～ 第12回 心のつながり(3) ～集団の心とその病～ 第13回 課題発表「私にとっての心のふしぎ」 第14回 心理の資格と仕事 第15回 まとめと到達度試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:文献講読(1時間)。 授業後学習:授業レポート、素材カード作成、課題(1時間)。 ※課題「私にとっての心のふしぎ」:各自がふしぎだと思ふ心の現象について、授業で紹介した概念やモデルを用いて理解した内容を、1分以内で発表する。						
授業方法	講義、演習(ディスカッション、プレゼンテーション)。						
評価基準と評価方法	期末試験(課題発表、到達度試験:40%):到達目標(1)に関する到達度の確認。 平常点(授業への参加貢献、授業レポート、素材カード 60%):到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	子育て支援の心理学						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P43070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	子育てとその支援について、社会・地域・個人の観点から基礎的な知識を学ぶとともに、子育ての中で生じる感情について考える。						
授業の概要	子育てに関する発達心理学・臨床心理学・社会福祉的な知見を学びながら、子育ての中で生じる様々な困難さやその支援についての基礎的な知識を学ぶ。						
到達目標	1. 子育てやその支援をする上で必要となる資源（機関や法律など）についての知識を持ち、人に説明できる。【知識・理解】 2. 子育てという日常の営みを持つ楽しさと苦しさをどちらも理解することができる。【汎用的技能】 3. 子育て支援について様々な立場からできることを考える視点を持つことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション ～子育てを支援すること～ 第2回：妊娠から出産まで ～親はいつから親になるの？～ 第3回：乳児の子育て① ～子どもに心はいつから宿るの？～ 第4回：乳児の子育て② ～ママだから子育てができるの？～ 第5回：家庭の中で生じる困難さ① ～“虐待”してしまう想い～ 第6回：家庭の中で生じる困難さ② ～子育てにパパって必要？～ 第7回：子育てを取り巻く環境 ～育て方と働き方～ 第8回：幼児の子育て① ～自分の形がで始める頃～ 第9回：幼児の子育て② ～家庭以外の子どもの過ごす場所ってどこ？～ 第10回：ふりかえりと中間試験 第11回：子育て支援における“聞き方”を学ぼう 第12回：“ほどよい”子育てについて考えよう 第13回：セラプレイ的遊びから学ぶ親子の関係支援 第14回：子どもに必要な安心感 ～アタッチメントと安心感の輪①～ 第15回：親だっって必要な安心感 ～アタッチメントと安心感の輪②～						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して、参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに、子どもや家族に関するテレビや小説、映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。（作品紹介を各回の感想シートにて求める）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：90分）						
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標2、3の達成度確認 中間試験（30%）：到達目標1の達成度確認 期末レポート（40%）：到達目標2、3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 レポートや試験に関しても、重要な内容は適宜紹介と振り返りを行う。						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する						
参考書	大豆生田啓友・太田光洋・森山史朗（編）（2014）『よくわかる子育て支援・家庭支援論』ミネルヴァ書房。ISBN：978-4-623-06948-4						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	産業カウンセリング論						
担当教員	千葉 征慶					科目ナンバ-	P43020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	「臨床心理士」「シニア産業カウンセラー」「キャリアコンサルタント」等の資格ホルダーが、「カウンセラー」として行っている活動内容、その活動の背景にある心理学的知見と労働衛生行政の動向。						
授業の概要	カウンセラーが行う「メンタルヘルス教育」や「メンタルヘルス事例対応」の実例を学ぶ。また、体験学習を行いながら「カウンセリングの基本スキル」を習得する。さらに、背景知識として、主なキャリア発達理論、労働衛生行政の動向について学ぶ。						
到達目標	①産業カウンセラーの主要な業務が、「教育とカウンセリング」であることが理解できる。 ②カウンセリングの基本となる「相手をわかる」ための「傾聴スキル」の基本が身につく。 ③様々なチェックリスト等を用いることで、自分自身についての理解が深まる。 ④社会に出て働く上で役立つ、いくつかのキャリア発達理論や労働衛生行政の動向やルールが理解できる。						
授業計画	<p>第1回： ようこそ!産業カウンセリング論へ 授業のガイダンスなど</p> <p>第2回： メンタルヘルス教育の実際① ストレス対策の4つのテーマ</p> <p>第3回： メンタルヘルス教育の実際② 「ストレスは人生のスパイス」 「鷹と鶏」の例え話</p> <p>第4回： メンタルヘルス教育の実際③ 「労働衛生睡眠教育」</p> <p>第5回： メンタルヘルス事例対応の実際</p> <p>第6回： 面接相談の基本を学ぶ ① 聴けていますか? 相手のお話「アドバイス、話が分かってこそ生きる」</p> <p>第7回： 面接相談の基本を学ぶ ② 人の話の三つの要素「意識して、心して聞く、知・情・意」</p> <p>第8回： 面接相談の基本を学ぶ ③ 感情にふれる「フィードバック 聞くは聞くほどにものを言う」</p> <p>第9回： 面接相談の基本を学ぶ ④ 面接場面のビデオ学習</p> <p>第10回： 面接相談の基本を学ぶ ⑤ ライブで聴き合う「聞いて、語って、拍手して」</p> <p>第11回： 背景知識を学ぼう ① キャリアについて 自分の持ち味を活かす 「適材適所」という発想</p> <p>第12回： 背景知識を学ぼう ② キャリアについて 「転機」のおとずれ 「ピンチをチャンスに」</p> <p>第13回： 背景知識を学ぼう ③ キャリアについて 人生は「計画性」と「偶然性」のミックスジュース</p> <p>第14回： 背景知識を学ぼう ④ 労働衛生行政の歴史と法規 人に歴史あり、制度・ルールに事件あり</p> <p>第15回： まとめ、質疑応答 試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習： manabaにて公開される各回授業のコンテンツを授業前に予習し、事前に公開された配布資料にも目を通しておくこと。(学習時間：二時間)</p> <p>授業後学習： manabaにて公開されるドリルで授業の理解度を確認すること。(学習時間：2時間)</p>						
授業方法	講義と体験学習(ワーク)。傾聴のワークのため、座席は、乱数を発生させて設定する指定席に着席すること。第5回、第13回の授業では、ビジネスマンの事例や就活事例について、話題提供者を招いて授業を行う予定。授業中に、「アンケート」「レポート」「プロジェクト」等を、manabaシステムをスマホを用いて行う。						
評価基準と評価方法	出席(遅刻の有無)重視。課題として、参考図書ブックレポートの提出。試験の成績を加味する。評価を数式で、敢えて表現すれば、下記の通り。 成績100=授業態度(40)+課題(ブックレポート)(30)+試験(30) なお、第15回目授業中に「試験」を行うのでこの日の欠席者と課題未提出者には、原則として単位を与えない。ブックレポート提出は、manabaシステムで行う。						
履修上の注意	遅刻はワーク支障をきたすので、遅刻厳禁。遅刻せずに出席できるよう体調管理、そしてモチベーションを大事にすること。就活を念頭に置いた学生は、出席日数等の不都合が生じないように注意すること。授業中にスマホ入力を行うので、忘れないこと。コースコンテンツ、小テスト、プロジェクト等のmanabaからの連絡が受け取れるようにスマホを設定すること。						
教科書	manabaに公開されたコンテンツ、添付資料を用いるので、プリントアウトして授業に臨むこと。また参考図書等の一読が、課題(ブックレポート)に取り組むために有益である。						
参考書	新版キャリアの心理学 渡部三枝子編(ナカニシヤ書房)、これからの職場のメンタルヘルス 藤井久和編(創元社)、フランクを学ぶ人のために 山田邦夫編(世界思想社)、ロゴセラピー入門シリーズ①から⑨ 勝田茅生(システムパブリカ)、日本ロゴセラピスト論集第1号から7号、ストレスに負けない技術 田中ウルヴェ(日本実業出版社)、今日、わたしは心を決める アンディ・アンドリュース(サンマーク出版)、言葉を聞く 人心を聴く人 武藤清栄(中災防)その他、講師と話し合い認められたもののブックレポートは可。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会・集団・家族心理学A／社会心理学A						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P1204A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	自己、対人関係に関する社会心理学の知見、理論を習得する。						
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした個人と社会の相互影響について理解すべく、自己、対人関係に関する社会心理学の知見、理論を学習する。						
到達目標	主に自己の意識や行動、対人関係について、社会心理学的な視点から考え、理解することができる。						
授業計画	第1回 社会心理学とは 第2回 社会心理学の方法・社会行動の原則 第3回 対人認知、ステレオタイプと偏見 第4回 帰属 第5回 印象形成 第6回 自己意識、自己概念、自尊心 第7回 社会的比較 第8回 対人魅力 第9回 対人コミュニケーション、非言語コミュニケーション 第10回 自己開示 第11回 認知的整合性、態度の機能と構造 第12回 説得による態度と行動の変化 第13回 社会的影響 第14回 前期授業の補足、質疑応答 第15回 前期試験と後期授業の説明						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式 毎回の授業内容について、座席が近いペア同士が1分間ずつで説明をする。						
評価基準と評価方法	平常点 30%，定期試験 70%						
履修上の注意	座席指定 教科書は、毎回必携						
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」 土肥伊都子（編著） 保育出版社 2014						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会・集団・家族心理学B／社会心理学B						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P1204B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	集団、家族、文化に関する社会心理学の知見、理論を習得						
授業の概要	集団、家族、および文化が個人に及ぼす影響について理解すべく、家族の機能や家族内人間関係、家族と社会との関係について学習する。						
到達目標	家族、集団、文化について、社会心理学的な視点から考え、理解することができる。						
授業計画	第1回 同調と服従、意思決定 第2回 集団・組織規範、制度 第3回 援助・攻撃行動 第4回 リーダーシップ 第5回 文化的存在としての人間、異文化接触 第6回 集団としての家族の普遍性と特殊性 第7回 家族の機能（性、情緒、社会化） 第8回 家族の発達段階、夫婦関係 第9回 生殖革命、育児 第10回 親子・きょうだい関係 第11回 食・住文化と家族関係 第12回 ワークライフバランス 第13回 高齢化社会における家族と福祉 第14回 補足説明と質疑応答 第15回 後期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式 毎回の授業内容について、座席の近いペア同士が、1分間ずつで説明する。						
評価基準と評価方法	平常点 30%，定期試験 70%						
履修上の注意	座席指定 教科書は、毎回必携						
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」 土肥伊都子（編著） 保育出版社 2014 （第1回から第5回まで） 「学びを人生へつなげる家族心理学」 土肥伊都子（編著） 保育出版社 2017 （第6回から第14回まで）						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P22040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学調査の統計的分析						
授業の概要	心理学調査法の一手法である質問紙調査について学習します。質問紙の作成から統計ソフトを用いた分析までの実習を行い、卒業論文執筆に必要な統計手法を身につけることを目指します。						
到達目標	1) 心理学調査に使用される統計手法を理解し、数値の読み取りができるようになる【知識・理解】 2) 調査目的に応じたデータの収集・分析方法を自分で選択できるようになる【汎用性技能】 3) 統計ソフトSPSSの操作方法を習得する【汎用性技能】						
授業計画	第1回 心理学調査の方法を知る：質問紙のデータの形式 第2回 データの入力&特徴を捉える：ファイルの読み込み、単純集計とクロス集計 第3回 変数の特徴を捉える：記述統計とデータの加工 第4回 データの特徴を一般化する：統計的推測 第5回 2つの量的変数の関係を調べる：相関係数 第6回 2つの量的変数の関係を調べる： $\chi^2$ 検定 第7回 6回までを振り返る：小テスト 第8回 2つの量的変数の平均値を比較する：t検定 第9回 複数の平均値を比較する：一元配置分散分析 第10回 複数の要因による平均値を比較する：多元配置分散分析 第11回 合成変数を作る：主成分分析 第12回 共通因子を見つける：因子分析 第13回 8~13回までを振り返る：小テスト 第14回 まとめと最終試験 第15回 最終試験のおさらい						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	この授業の内容はもちろん、「統計基礎論」の内容についても復習した上で毎回の授業に臨んでください。必要であれば、統計に関する図書、ネットサイトなども利用してください。HWを出すことがあります。基本的なパソコン操作は理解しているものとして授業を行います。 授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前にパソコンを用いて課題を行っておく（2時間） 授業後学習：授業で行った分析の内容を確認し、SPSSの操作について復習する。またHWの課題を行い理解度を確かめる（2時間）						
授業方法	講義および実習：講義の中でパソコンを使った実習を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度、課題・HWへの取り組み等）30%、試験（小テスト2回・最終試験）70% 到達目標1）、2）、3）については課題・HW及び試験によって評価する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 5回の欠席で、受講資格を失う。 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	寺島拓幸・廣瀬毅士。(2015). SPSS によるデータ分析. 東京図書. ISBN978-4489022142						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	谷 芳恵					科目ナンバ-	P22040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学調査の手法および統計ソフト操作方法を習得する						
授業の概要	心理学調査法の一手法である質問紙調査について学習します。質問紙の作成から統計ソフトを用いた分析までの実習を行い、卒業論文執筆に必要な統計手法を身につけることを目指します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心理学調査に使用される統計手法を理解し、数値の読み取りができるようになる【知識・理解】</li> <li>2) 調査目的に応じたデータの収集・分析方法を自分で選択できるようになる【汎用性技能】</li> <li>3) 統計ソフトSPSSの操作方法を習得する【汎用性技能】</li> </ol>						
授業計画	第1回 心理学調査の方法を知る 第2回 心理学調査を計画する 第3回 質問紙を作成する 第4回 データを入力・整理する 第5回 データを読む：単純集計 第6回 2つの変数の関係を調べる：相関 第7回 クロス集計表を解析する： $\chi^2$ 検定 第8回 7回までを振り返る：小テスト 第9回 平均値を比べる1：t検定 第10回 平均値を比べる2：分散分析 第11回 合成変数を作る：主成分分析 第12回 共通因子を見つける：因子分析 第13回 結果を解釈し、考察する 第14回 13回までを振り返る：小テスト 第15回 授業のまとめ/最終試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	この授業の内容はもちろん、「統計基礎論」の内容についても復習した上で毎回の授業に臨んでください。必要であれば、統計に関する図書、ネットサイトなども利用してください。また、不定期的にHWを出します。基本的なパソコン操作は理解しているものとして授業を行います。 授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前にパソコンを用いて課題を行っておく(2時間) 授業後学習：授業で行った分析の内容を確認し、SPSSの操作について復習する。またHWの課題を行い理解度を確かめる(2時間)						
授業方法	講義（実習を含みます）						
評価基準と評価方法	平常点(30%) 出席状況、実習への取り組み、課題・HWへの取り組みを総合的に評価します。HWは添削後、各自にフィードバックします。 試験(70%) (1)小テスト2回：授業前半/後半の2回、小テストを実施します。小テストは添削後返却し、各自の到達度の確認に活用します。(2)最終試験：授業全体における到達度の確認を行います。						
履修上の注意	「統計基礎論」単位修得者のみ受講可能です（履修制限40名）。遅刻は欠席になります。受講の際には私語や携帯電話の操作を慎むなど、最低限のマナーを守り、他の受講生に迷惑をかけないようにしてください。守れない場合には、退席していただくこともあります。授業計画は、必要に応じて変更することがあります。						
教科書	寺島拓幸・廣瀬毅士（2015）. SPSSによるデータ分析 東京図書 ISBN978-4489022142						
参考書	必要に応じて紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	障害者・障害児心理学／児童期の臨床心理学						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P32060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	身体障害、知的障害及び精神障害の概要について学ぶとともに、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援についての理解の視点を育む。						
授業の概要	身体障害、知的障害及び精神障害の特徴や、そうした困難さを抱える障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について、当事者の視点に立って理解するという姿勢を養っていく。						
到達目標	1. 代表的な身体障害、知的障害及び精神障害についての知識を得て、人に説明ができる。【知識・理解】【汎用的技能】 2. 障害者・障害児の心理社会的課題について、当事者の立場に立ってその困難さを具体的に人に説明ができる。【態度・志向性】【汎用的技能】 3. 障害者・障害児に対する支援について理論や法律、施設・機関などについて、人に説明ができる。【知識・理解】【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション ～“障碍”とはなんなのだろうか～ 第2回：子どもの心と体の発達 ～発達はどこで生まれるのか～ 第3回：子どもの発達の困難さ ～“関係障碍”と二次障害～ 第4回：障碍のある人の視点に立つということ ～体験ワークと発表グループ作り～ 第5回：“身体障害”ってなんだろう① ～体の不自由さ～ 第6回：“身体障害”ってなんだろう② ～体の不自由さとその支援を体験する～ 第7回：“身体障害”ってなんだろう③ ～目に見えない困難さ～ 第8回：“知的障害”ってなんだろう ～理解の困難さとは～ 第9回：知能や発達を測定するという事 ～代表的な検査と実施の功罪～ 第10回：“発達障害”ってなんだろう① ～“外”から見る自閉症～ 第11回：“発達障害”ってなんだろう② ～“内”から見る自閉症～ 第12回：“発達障害”ってなんだろう③ ～ADHD, LD, DCDの世界を体験する～ 第13回：様々な支援技法を体験する 第14回：障碍のある人を理解する体験ワークのグループ発表 第15回：振り返りと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して、参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに、障碍に関するテレビや小説、映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。（作品紹介を各回の感想シートにて求める）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：90分）						
授業方法	基本的に講義形式で行うが、必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。加えて、グループによる調べ学習、発表を一部行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標1、2、3の達成度確認 グループ発表（35%）：到達目標2の達成度確認 期末試験（35%）：到達目標1、2、3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 グループ発表や試験に関しても、重要な内容は適宜補足や解説を行う。						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	小林 隆児・鯨岡 峻（2005）自閉症の関係発達臨床。日本評論社。 ISBN：978-4535562264 赤木 和重（2018）目からウロコ！驚愕と共感の自閉症スペクトラム入門。全国障害者問題研究会出版部。 978-4881347157						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	消費社会の心理学						
担当教員	前田 洋光					科目ナンバ-	P43040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者理解のための心理学						
授業の概要	消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものであり、その行動は、消費者の個人内要因や環境からの外的要因など、多様な要因から影響を受けている。本講では、消費者の購買意思決定過程や情報処理、価格判断など、幅広くトピックを取り上げ、消費者を取り巻く問題を論考していく。受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考え、よりよい消費生活を考えるきっかけにしてほしい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな消費行動を、客観的な視点から論考することができる。</li> <li>・消費の文脈から、人間理解を深めることができる</li> <li>・消費者の特性を理解した上で、マーケティング戦略との対応を考えることができる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：消費者行動とは？</li> <li>2. 消費者の購買意思決定過程（1）：消費者の問題認識と情報探索、多属性態度モデル</li> <li>3. 消費者の購買意思決定過程（2）：購買意思決定を左右する要因</li> <li>4. 消費者の購買意思決定過程（3）：不合理な購買意思決定</li> <li>5. 消費者の価格判断（1）：心理的サイフ</li> <li>6. 消費者の価格判断（2）：不合理な消費者の価格判断</li> <li>7. 消費者満足</li> <li>8. 保有効果、モノの意味</li> <li>9. 広告効果</li> <li>10. ブランドと広告</li> <li>11. プロダクトプレイスメント</li> <li>12. くちコミの概略</li> <li>13. くちコミの効果左右する要因</li> <li>14. 消費者の廃棄過程</li> <li>15. まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習として、参考書籍によって下調べをすること。事後学習として、授業で学習した内容について、実際の店舗（売り場）を観察し、異同点について学生同士ディスカッションする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式でおこなう。講義毎に、当該授業のテーマに関する簡単な小レポートを実施する。						
評価基準と評価方法	小レポート（30%） テスト（70%）						
履修上の注意	ある程度の心理学（特に社会心理学）の知識を有し、かつ、消費者行動に関心がある人を対象とします。						
教科書							
参考書	杉本徹雄（編著）（2012）新・消費者理解のための心理学 福村出版						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	神経・生理心理学／生理心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりするということは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体はどこにも存在しないのだろうか。 この授業では、心と身体の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、心のありかについて自らの考えをまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	①脳神経系の構造及び機能について説明できる。 ②記憶、感情等の生理学的反応の機序について説明できる。 ③高次脳機能障害の概要について説明できる。 ④心と身体の関係がわかる現象や具体例を挙げ、それを生理心理学的に説明できる。						
授業計画	第1講 生理心理学とは 第2講 脳 ～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第3講 視覚 ～なぜものが見えるのか～ 第4講 顔認識 ～なぜアヒル口が流行ったのか～ 第5講 知覚の統合 ～青い食べ物でダイエット？～ 第6講 記憶1 ～記憶の亡霊～ 第7講 記憶2 ～マインドマップを描こう～ 第8講 知能 ～脳トレで頭が良くなる？～ 第9講 発達 ～赤ちゃんはワンダーランド～ 第10講 感情 ～泣くから悲しい？～ 第11講 恋愛 ～愛は麻薬？それとも絆？～ 第12講 ストレス ～癒しの脳科学～ 第13講 人間らしさ ～脳の中のもうひとりの私～ 第14講 ココロとカラダ ～心はどこにある？～ 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。授業の最後にリアクションペーパーの記述を求める。リアクションペーパーに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー40%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容記述から授業への参加関与度を評価する。到達目標①②③に関する到達度の確認。 期末試験60%：到達目標④に関する到達度の確認。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究に向けて、臨床心理学に関する研究のテーマを探索する。						
授業の概要	カウンセリングや心理療法などの対人援助、人と人との関係性（親子関係やきょうだい関係、友人関係など）やコミュニケーション、病院臨床（心身症や精神疾患など）や学校臨床（不登校、発達障害など）などの領域の中から各自興味のあるテーマを探し、そのテーマに関連する文献をまとめて発表を行い、臨床心理学の観点からディスカッションを行う。						
到達目標	1. 研究テーマに関する文献を収集し、要点をまとめて発表することができる。【知識・理解】 2. 研究テーマに関する文献について、自らの考えを述べるができる。【知識・理解】 3. さまざまな文献に関して、ディスカッションすることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 研究の進め方 第2回 文献に関する発表とディスカッション① 発表担当者1 第3回 文献に関する発表とディスカッション② 発表担当者2 第4回 文献に関する発表とディスカッション③ 発表担当者3 第5回 文献に関する発表とディスカッション④ 発表担当者4 第6回 文献に関する発表とディスカッション⑤ 発表担当者5 第7回 文献に関する発表とディスカッション⑥ 発表担当者6 第8回 文献に関する発表とディスカッション⑦ 発表担当者7 第9回 文献に関する発表とディスカッション⑧ 発表担当者8 第10回 文献に関する発表とディスカッション⑨ 発表担当者9 第11回 文献に関する発表とディスカッション⑩ 発表担当者10 第12回 研究論文に関する発表とディスカッション① 発表担当者1 第13回 研究論文に関する発表とディスカッション② 発表担当者2 第14回 研究論文に関する発表とディスカッション③ 発表担当者3 第15回 授業の総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：興味のある研究テーマに関する文献を探し、まとめる。（学習時間：90分） 授業後学習：発表やディスカッションの内容の要点を確認し、整理する。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミナール形式とし、すべての授業で討論や発表を行う。						
評価基準と評価方法	・発表 50%：発表内容を評価する（到達目標1. 2. 3. に関する到達度の確認） ・平常点 50%：質疑応答や討論中の姿勢を評価する。（到達目標3. に関する到達度の確認）						
履修上の注意	・互いの研究に関心を持ち、積極的に授業に参加すること。 ・原則として、遅刻や欠席は認めないが、やむを得ない場合は必ず連絡すること。 ・発表担当者は受講人数分の資料を用意すること。						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究						
授業の概要	次年度の「卒業研究」に向けて、研究テーマを設定し、研究論文の読み方・書き方を習得します。対象(対人)関係に関わる問題を中心に、興味のあるテーマについて文献を調べ、まとめた内容を発表し、全体討議を行い、それらの過程を通じて各自の研究テーマを決めます。						
到達目標	(1)心理学の文献や論文を講読し、理解した内容をまとめて伝えることができる。【知識・理解】 (2)自身の興味・関心を心理学的な研究テーマに結びつけ、その過程を明確化し伝えることができる。【知識・理解】 (3)全体討議への参加を通して、互いの考えや発表内容に関する理解を深めることができる。【汎用的技能】 (4)グループとして目的を共有し、その達成のために必要な作業に主体的に関わることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 自己紹介、オリエンテーション 第2回 原子価査定テストの施行 第3回 原子価査定テストの採点 第4回 興味・関心の明確化(1) グループワーク1 第5回 興味・関心の明確化(2) グループワーク2 第6回 興味・関心の明確化(3) グループワーク3 第7回 興味・関心の共有 発表と討議 第8回 先行研究から学ぶ(1) 書籍と論文の見つけ方 第9回 先行研究から学ぶ(2) 読んだ書籍と論文のまとめと発表1 第10回 先行研究から学ぶ(3) 読んだ書籍と論文のまとめと発表2 第11回 先行研究から学ぶ(4) 読んだ書籍と論文のまとめと発表3 第12回 研究テーマの決定(1) 興味・関心への心理学的理解 第13回 研究テーマの決定(2) 研究仮説の生成 第14回 研究テーマの決定(3) 研究方法の検討 第15回 研究テーマの中間発表						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献購読(1時間)、発表用資料作成(1時間)、研究計画書作成(1時間)。 授業後学習：提出物の加筆修正(1時間)。						
授業方法	講義、演習(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション)。						
評価基準と評価方法	発表・提出物(50%)：到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 ゼミ活動への参加・貢献(50%)：到達目標(3)および(4)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	授業の性質上、無断欠席は原則不可とします。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし。						
参考書	ハフシ・メッド著 2010 目に見えない人と人との繋がりをはかるー原子価査定テスト(VAT)の手引き ナカニシヤ出版 ISDN10:4779504899 146/1036 (第1書庫1層)						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会や身の回りの人々、自分自身をさまざまな視点や角度から見つめながら、自らの心理学的研究の探求のためのテーマを見つける						
授業の概要	卒業研究に向けて、研究の進め方の基本を学ぶとともに、各自の関心に基づいて読んだ文献について報告を行い、ディスカッションを通じて自らの関心のあり方を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分が関心を持つテーマに即した適切な文献を選択できる。</li> <li>2. 文献を適切に読むことができる。</li> <li>3. 読んだ文献を適切に要約して報告することができる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：自己紹介と報告の割り当て</li> <li>2. 研究の進め方を学ぶ(1)：テーマの探し方</li> <li>3. 研究の進め方を学ぶ(2)：文献の探し方と読み方</li> <li>4. 研究の進め方を学ぶ(3)：研究の計画の立て方</li> <li>5. 研究の進め方を学ぶ(4)：報告の仕方とディスカッションの仕方</li> <li>6. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅠ(1)：発表グループ1</li> <li>7. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅠ(2)：発表グループ2</li> <li>8. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅠ(3)：発表グループ3</li> <li>9. 研究計画の報告とディスカッション(1)：発表グループ1</li> <li>10. 研究計画の報告とディスカッション(2)：発表グループ2</li> <li>11. 研究計画の報告とディスカッション(3)：発表グループ3</li> <li>12. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅡ(1)：発表グループ1</li> <li>13. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅡ(2)：発表グループ2</li> <li>14. 文献調査に基づく報告とディスカッションⅡ(3)：発表グループ3</li> <li>15. まとめ：総括と今後の課題</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること（60分）。 授業後は文献の追加調査を行うこと（60分）。						
授業方法	演習形式。受講生の報告と質疑応答、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業での報告40%、質疑応答とディスカッション60%により評価する。						
履修上の注意	主体的に卒業研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な問題を心理学の視点で理解し、卒業研究のテーマを探索する						
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどに関する様々な理論や技法について広く学習し、さまざまな心理的な問題の解決について理解を深める。学校現場や医療現場で行なわれている臨床実践に関わる文献を読み、討論を行う。臨床心理学領域に関する学術論文の形式、データの読み方などについて理解を深め、卒業研究のテーマをさがす。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会における問題について心理学的な視点で問題意識を持ち、説明することができる。</li> <li>2. 人の心や行動の状態を把握するための方法について理解し、説明することができる。</li> <li>3. 研究テーマに関して、心理学的に分析し、発表・報告することができる</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション テーマの決め方と研究の進め方  第2回：臨床心理学領域の研究領域と資料収集の方法  第3回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（1）ライフサイクル  第4回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（2）精神疾患  第5回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（3）心身症  第6回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（4）不登校  第7回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（5）ひきこもり  第8回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（6）発達障害  第9回：学術論文に関する文献研究と発表（1）研究計画について  第10回：学術論文に関する文献研究と発表（2）学術論文の構成  第11回：学術論文に関する文献研究と発表（3）測定指標  第12回：学術論文に関する文献研究と発表（4）記述統計  第13回：学術論文に関する文献研究と発表（5）推測統計  第14回：学術論文に関する文献研究と発表（6）考察について  第15回：授業の総括と今後の課題について</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学の関連書にて予習（学習時間：90分）  授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）  上記の学習に以下の事柄を含める  1. 文献検索と発表の準備  2. 研究計画の作成</p>						
授業方法	演習形式とし、すべての授業で討論や発表を行う。討論や発表に関して適宜解説を加える。						
評価基準と評価方法	<p>ディスカッションの内容：50%、発表：50%  ディスカッションの内容：討論されるテーマに関して、心理学的な概念を用いて論理的に討論することができるかどうかについて評価する。到達目標の1、2の到達度の確認。  発表：研究テーマを設定するために先行文献を読み、発表した内容についてその専門的妥当性について評価する。到達目標の2、3の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席しないこと</li> <li>・互いの研究に関心を持ち、ディスカッションに積極的に参加すること</li> </ul>						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P0305A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	事象の心理学的理解						
授業の概要	受講生各自が興味をもつ心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表・討論を行う。その過程で、心理学的観点に基づいた現象の理解、および研究の基本的な技法と態度を身につけることを目的とする。						
到達目標	①関心のある心の現象について、心理学的観点からまとめ、発表することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②他者の発表を聞いて、コメントをすることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ③心理学研究における基本的な技法と態度について、説明することができる。【知識・理解】 ④関心のある心の現象について、先行研究を検索し、文献リストを作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	#01：オリエンテーション演習の進め方について #02：心理学論文の形式 #03：文献の種類 #04：文献検索の方法 #05：受講生による発表と討論-1周目の① #06：受講生による発表と討論-1周目の② #07：受講生による発表と討論-1周目の③ #08：受講生による発表と討論-1周目の④ #09：受講生による発表と討論-1周目の⑤ #10：受講生による発表と討論-2周目の① #11：受講生による発表と討論-2周目の② #12：受講生による発表と討論-2周目の③ #13：受講生による発表と討論-2周目の④ #14：受講生による発表と討論-2周目の⑤ #15：まとめ、文献リストの提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること（学習時間90分以上）。 授業後学習：授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおくこと（学習時間90分以上）。						
授業方法	演習形式。 毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに、積極的に取り組むことを求める。						
評価基準と評価方法	発表（40%）：発表資料ならびに発表の仕方について評価する（到達目標①、③、④の到達度確認）。 討論への参加（40%）：他者の発表に対するコメントの内容について評価する（到達目標②の到達度確認）。 文献リストの提出（20%）：学期末に、関心のある領域の文献リストを作成、提出させる（到達目標④の到達度確認）。						
履修上の注意	演習科目であるので、特に出席、授業への参加を重視する。 1回の授業あたり、最低1回の発言を求める。						
教科書	指定しない。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究に向けて、自身の研究テーマを決めてそれに応じた研究計画を立てる。						
授業の概要	カウンセリングや心理療法などの対人援助、人と人との関係性（親子関係やきょうだい関係、友人関係など）やコミュニケーション、病院臨床（心身症や精神疾患など）や学校臨床（不登校、発達障害など）などの領域の中から各自興味のあるテーマを探し、そのテーマに関連する文献をまとめて発表を行い、臨床心理学の観点からディスカッションを行う。発表とディスカッションの内容を参考に自身の研究テーマを決め、卒業論文の研究計画を立てる。						
到達目標	1. 研究テーマに関する文献を収集し、要点をまとめて発表することができる。【知識・理解】 2. 研究テーマに関する文献について、自らの考えを述べるができる。【知識・理解】 3. さまざまな文献に関して、ディスカッションすることができる。【汎用的技能】 4. 卒業研究のテーマおよび研究計画について説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 (心理学演習Aの続き) 研究論文に関する発表とディスカッション④ 発表担当者4 第2回 研究論文に関する発表とディスカッション⑤ 発表担当者5 第3回 研究論文に関する発表とディスカッション⑥ 発表担当者6 第4回 研究論文に関する発表とディスカッション⑦ 発表担当者7 第5回 研究論文に関する発表とディスカッション⑧ 発表担当者8 第6回 研究論文に関する発表とディスカッション⑨ 発表担当者9 第7回 研究論文に関する発表とディスカッション⑩ 発表担当者10 第8回 研究テーマおよび研究計画に関する発表とディスカッション① 発表担当者1・2 第9回 研究テーマおよび研究計画に関する発表とディスカッション② 発表担当者3・4 第10回 研究テーマおよび研究計画に関する発表とディスカッション③ 発表担当者5・6 第11回 研究テーマおよび研究計画に関する発表とディスカッション④ 発表担当者7・8 第12回 研究テーマおよび研究計画に関する発表とディスカッション⑤ 発表担当者9・10 第13回 研究計画の作成 第14回 研究計画の修正 第15回 授業の総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：文献を参考に発表資料を作成する。（学習時間：90分） 授業後学習：発表やディスカッションの内容の要点を確認・整理し、必要な修正を加える。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミナール形式とし、すべての授業で討論や発表を行う。						
評価基準と評価方法	・発表 50%：発表内容を評価する（到達目標1.2.3.に関する到達度の確認） ・平常点 50%：質疑応答や討論中の姿勢を評価する。（到達目標3.に関する到達度の確認）						
履修上の注意	・互いの研究に関心を持ち、積極的に授業に参加すること。 ・原則として、遅刻や欠席は認めないが、やむを得ない場合は必ず連絡すること。 ・発表担当者は受講人数分の資料を用意すること。						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究						
授業の概要	「心理学演習A」で決定した研究テーマについて、具体的な研究計画を作成することを目的とします。 概要： 各自の研究テーマについて研究計画を作成し、内容を発表し、全体でディスカッションを行います。						
到達目標	(1)卒業研究の研究計画を立て、その内容を明確に伝えることができる。【知識・理解】 (2)全体討議を通じて、互いの考えや研究内容への理解を深めることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画書の作成(1) 様式と書き方 第3回 研究計画書の作成(2) 問題とその背景 第4回 研究計画書の作成(3) 先行研究のまとめ 第5回 研究計画書の作成(4) 目的と仮説 第6回 研究計画書の作成(5) 研究方法 第7回 研究計画書の作成(6) 全体討議 第8回 質問紙の作成(1) 構造と様式 第9回 質問紙の作成(2) 全体討議 第10回 質問紙の作成(3) 修正後の検討 第11回 研究計画の発表(1) 第12回 研究計画の発表(2) 第13回 研究計画の発表(3) 第14回 研究計画の発表(4) ※大学院合同 第15回 総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献講読(1時間)、資料作成(1時間)。 授業後学習：提出物の加筆修正(1時間)。 授業外にも積極的に意見や質問をしてください。						
授業方法	講義、演習(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション)。						
評価基準と評価方法	発表・提出物(50%)：到達目標(1)に関する到達度の確認。 ゼミ活動への参加・貢献(50%)：到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	「心理学演習A」の内容を、さらに発展させる授業です。 授業の性質上、無断欠席は原則不可とします。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	自らの心理学的研究のテーマを定め、それに基づいた研究計画を作成する						
授業の概要	報告とディスカッションを通じて、自らの関心のあり方を深めることを通じて、研究テーマを設定し、そのテーマの探求の方法を研究計画として具体化する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自他の考えの違いに注意しながらディスカッションができる。</li> <li>2. 自分の関心のあり方を深めて研究テーマを設定できる。</li> <li>3. 自らの研究テーマにふさわしい研究計画を立案できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：各自の課題の確認と報告の割り当て</li> <li>2. 研究の進め方を学ぶ(1)：先行研究の整理の仕方</li> <li>3. 研究の進め方を学ぶ(2)：適切な研究方法の選び方</li> <li>4. 研究の進め方を学ぶ(3)：収集したデータの分析の仕方</li> <li>5. 研究の進め方を学ぶ(4)：考察の仕方</li> <li>6. 研究計画の報告とディスカッションⅠ(1)：発表グループ1</li> <li>7. 研究計画の報告とディスカッションⅠ(2)：発表グループ2</li> <li>8. 研究計画の報告とディスカッションⅠ(3)：発表グループ3</li> <li>9. 追加文献調査の報告とディスカッション(1)：発表グループ1</li> <li>10. 追加文献調査の報告とディスカッション(2)：発表グループ2</li> <li>11. 追加文献調査の報告とディスカッション(3)：発表グループ3</li> <li>12. 研究計画の報告とディスカッションⅡ(1)：発表グループ1</li> <li>13. 研究計画の報告とディスカッションⅡ(2)：発表グループ2</li> <li>14. 研究計画の報告とディスカッションⅡ(3)：発表グループ3</li> <li>15. まとめ：総括と今後の課題</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること（60分）。 授業後は文献の追加調査を行うこと（60分）。						
授業方法	演習形式。受講生の報告と質疑応答、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業での報告40%、質疑応答とディスカッション60%により評価する。						
履修上の注意	主体的に卒業研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究のテーマをしぼり、研究計画を立てる。						
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどに関する様々な理論や技法について広く学習し、さまざまな心理的な問題の解決について理解を深める。学校現場や医療現場で行なわれている臨床実践に関わる文献（特に論文）を中心としてお互いに紹介し、討論をすすめていく形で行う。臨床心理学分野における学術論文の読み方、データの解釈などについて学びながら興味に従ってテーマを絞り、後半は卒業論文のための研究計画を立てる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会における問題について心理学的な視点で問題意識を持ち、説明することができる。</li> <li>2. 人の心や行動の状態を把握するための方法について理解し、説明することができる。</li> <li>3. 卒業論文の研究テーマに即した研究計画を立て、心理学的な概念を用いて説明することができる。</li> </ol>						
授業計画	第1回：学術論文の検索について（1）雑誌の選び方 第2回：学術論文の検索について（2）検索の方法 第3回：学術論文の検索について（3）引用の仕方について 第4回：学術論文のデータ解釈について（1）相関分析 第5回：学術論文のデータ解釈について（2）平均値の比較 第6回：学術論文のデータ解釈について（3）因子分析 第7回：学術論文のデータ解釈について（4）重回帰分析 第8回：学術論文のデータ解釈について（5）結果の読み方 第9回：調査／実験の方法論と倫理（1）インフォームドコンセント 第10回：調査／実験の方法論と倫理（2）守秘義務 第11回：調査／実験の方法論と倫理（3）データの保管 第12回：研究計画の立て方 第13回：研究計画に関する討論（1）対象 第14回：研究計画に関する討論（2）方法・手続き 第15回：研究計画に関する討論（3）分析方法						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について臨床心理学や精神医学の関連書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分） 上記の学習時間に以下の事柄を含める <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検索と発表の準備</li> <li>2. 研究計画の作成</li> </ol>						
授業方法	演習形式とし、すべての授業で討論を行う						
評価基準と評価方法	ディスカッションの内容：50%、発表：50% ディスカッションの内容：討論されるテーマに関して、心理学的な概念を用いて論理的に討論することができるかどうかについて評価する。到達目標の1、2の到達度の確認。 発表：研究テーマを設定するために先行文献を読み、発表した内容についてその専門的妥当性について評価する。到達目標の2、3の到達度の確認。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席しないこと</li> <li>・互いの研究に関心を持ち、ディスカッションに積極的に参加すること</li> </ul>						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P0305B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究のテーマ決定						
授業の概要	心理学演習Aに引き続き、受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表・討論を行うことで、テーマについての理解をさらに深める。 その上で、最終的に卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案することを目的とする。						
到達目標	①関心のある心の現象について、臨床心理学的観点からまとめ、発表することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②他者の発表を聞いて、コメントをすることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ③卒業研究の研究計画を作成できる。【知識・理解】 ④卒業研究のために必要な文献リストを作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	#01: 演習の進め方についてのオリエンテーション #02: 受講生による発表と討論-1周目の① #03: 受講生による発表と討論-1周目の② #04: 受講生による発表と討論-1周目の③ #05: 1周目の発表についての全体講評とディスカッション #06: 受講生による発表と討論-2周目の① #07: 受講生による発表と討論-2周目の② #08: 受講生による発表と討論-2周目の③ #09: 2周目の発表についての全体講評とディスカッション #10: 受講生による発表と討論-3周目の① #11: 受講生による発表と討論-3周目の② #12: 受講生による発表と討論-3周目の③ #13: 3周目の発表についての全体講評とディスカッション #14: 卒業研究計画書と文献リストの提出① #15: 卒業研究計画書と文献リストの提出②						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること(学習時間90分以上)。 授業後学習: 授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおくこと(学習時間90分以上)。						
授業方法	演習形式。 毎回、数名ずつ(受講人数によりその数は異なる)発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに、積極的に取り組むことを求める。						
評価基準と評価方法	発表(40%): 発表資料ならびに発表の仕方について評価する(到達目標①、③、④の到達度確認)。 討論への参加(40%): 他者の発表に対するコメントの内容について評価する(到達目標②の到達度確認)。 卒業研究計画と文献リストの提出(20%): 学期末に、卒業研究の研究計画ならびに研究に必要な文献リストを作成、提出させる(到達目標③、④の到達度確認)。						
履修上の注意	演習科目であるので、特に出席、授業への参加を重視する。 1回の授業あたり、最低1回の発言を求める。						
教科書	指定しない。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学概論						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P01020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の学問の成り立ち、人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学ぶ						
授業の概要	心理学の幅広い分野を、教科書の内容にそって学習する。これにより、心理学という学問は、心のはたらきを「行動」として捉え、その法則を科学的に定立するものであることが理解できる。また、授業時間の一部を使ってできる、簡単な実験や質問紙調査を行い、自己分析も行う。						
到達目標	現代心理学の全体像を知ることができる。 心理学における実証的アプローチを理解することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ～科学としての心理学 第2回 感覚・知覚 第3回 学習 第4回 記憶 第5回 認知 第6回 生理 第7回 情動と動機づけ 第8回 知能 第9回 パーソナリティ 第10回 発達 第11回 臨床 第12回 社会 第13回 現代社会と心理学 第14回 質疑応答、補足 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式（アクティブ・ラーニングを含む）						
評価基準と評価方法	平常点（授業への積極的参加）30%、定期試験70%						
履修上の注意	座席指定 教科書を毎回、必携						
教科書	「自ら実感する心理学」 土肥伊都子（編著）（保育出版社）						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習I						
担当教員	安原 秀和					科目ナンバ-	P73050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	基礎心理学の用語や概念についての理解を深める。						
授業の概要	大学院進学を希望する学生を対象とする。 心理学概論書を受講生が自習し、その週の担当者が参加者の前で発表する。 発表の後、教員の作成したテスト問題を解く。						
到達目標	大学院合格のために必要な水準まで、基礎心理学の知識を得ることができるようになる。 プレゼンテーションに慣れる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 精神物理学と視知覚1 目の仕組みについて（教員が発表する） 第3回 視知覚2 色の知覚と錯視について（教員が発表する） 第4回 視知覚3 形の知覚、奥行き知覚、運動の知覚 第5回 聴知覚と触知覚 第6回 学習 第7回 中間テスト 第8回 記憶1 記憶の種類 第9回 記憶2 学習と記憶の神経基盤 第10回 思考1 問題解決とピアジェの発達段階 第11回 思考2 知識と推論 第12回 言語 第13回 失語症と失行症、それらの神経基盤 第14回 動機付け1 動機付けと情動 第15回 動機付け2 動機付けの種類と葛藤 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業回で少なくとも1名が担当となり発表を行なうため、10時間程度の発表準備が必要である。 そして、毎週小テストがあるため、テスト対策として2時間程度、教科書や参考書を含め様々な情報媒体に触れて課題に取り組む必要がある。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	テストの成績(50%) 発表の出来(50%)						
履修上の注意	授業外の学習で忙しくなるとお思いますので、頑張ってください。 演習中の発言も積極的にお願いします。						
教科書	『心理学 第5版』 鹿取 廣人, 杉本 敏夫, 鳥居 修晃 東京大学出版会 978-4130121095						
参考書	『心理学』 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 有斐閣 ISBN: 978-4641053694 ※こちらは買う必要はありません						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習II						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P74060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学系大学院進学等に向けての専門的知識の修得						
授業の概要	臨床心理学系の大学院進学や心理臨床の専門職として活動するために必要となる、より専門性の高い臨床心理学の専門的知識の習得を目指します。 大学院入試の過去問題（臨床心理学領域専門科目）を中心に調べた内容の発表と討議を通して互いの理解を深めます。 外国語科目への対策についても課題を通して行います。						
到達目標	(1)臨床心理学系の大学院進学や心理臨床の専門職に必要とされる専門的知識を習得し、それらの内容について説明することができる。【知識・理解】 (2)到達目標授業を通して得た知識を生かして、臨床や研究の方向性を明確化し、他者に伝えることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 心理学系大学院入試の動向 第2回 臨床心理学の基礎(1) 歴史的背景 第3回 臨床心理学の基礎(2) 人格理論 第4回 臨床心理学の基礎(3) 心理障害とその治療 第5回 臨床心理学の基礎(4) 研究方法と倫理規定 第6回 臨床心理学の基礎(5) 他領域との連携 第7回 臨床心理アセスメント(1) アセスメント(査定)方法の種類 第8回 臨床心理アセスメント(2) 検査法の概要 第9回 臨床心理援助(1) 導入と枠組み 第10回 臨床心理援助(2) 援助方法の種類と概要 第11回 臨床心理援助(3) 対人関係療法の理論と実際 第12回 臨床心理援助(4) グリーフケアの理論と実際 第13回 臨床心理援助(5) 家族療法・ブリーフセラピーの理論と実際 第14回 臨床心理援助(6) 精神分析的心理療法の理論と実際 第15回 臨床心理援助(7) 遊戯療法・発達臨床の理論と実際						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献講読(1時間)、資料作成(1時間)。 授業後学習：課題(専門科目過去問題、外国語過去問題：1時間)。						
授業方法	演習(プレゼンテーション、ディスカッション)。						
評価基準と評価方法	提出物(50%)：到達目標(1)に関する到達度の確認。 授業への参加・貢献(50%)：到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	臨床心理学系大学院への進学や心理臨床の専門職を目指す学生を対象とします。						
教科書	なし。						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A／心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・木場・中田・安原					科目ナンバ-	P0203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) 心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 オリエンテーションと実験(木場) 2 実験の解説とレポート作成(木場) 3 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 4 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート (木場) 5 記憶の系列位置効果 (安原) 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(安原) 7 触二点閾の測定(中田) 8 触二点閾の測定のレポート作成(中田) 9 ストループ(久津木) 10 ストループ：データの分析・レポート作成(久津木) 11 自由実験：立案・計画 (木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 12 自由実験：実施(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 15 講評(発表)(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A／心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・木場・中田・安原					科目ナンバ-	P0203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) 心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 オリエンテーションと実験(木場) 2 実験の解説とレポート作成(木場) 3 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 4 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート (木場) 5 記憶の系列位置効果 (安原) 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(安原) 7 触二点閾の測定(中田) 8 触二点閾の測定のレポート作成(中田) 9 ストループ(久津木) 10 ストループ：データの分析・レポート作成(久津木) 11 自由実験：立案・計画 (木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 12 自由実験：実施(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 15 講評(発表)(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4 限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A／心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・木場・中田・安原					科目ナンバ-	P0203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) 心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 オリエンテーションと実験(木場) 2 実験の解説とレポート作成(木場) 3 アンケート調査・質問紙実験の計画・実施(木場) 4 アンケート調査・質問紙データの分析・レポート (木場) 5 記憶の系列位置効果 (安原) 6 記憶の系列位置効果：データの分析・レポート(安原) 7 触二点閾の測定(中田) 8 触二点閾の測定のレポート作成(中田) 9 ストループ(久津木) 10 ストループ：データの分析・レポート作成(久津木) 11 自由実験：立案・計画 (木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 12 自由実験：実施(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 13 自由実験：データの分析・レポート作成(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：レポート作成・発表(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 15 講評(発表)(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B／心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・中田・安原					科目ナンバ-	P0203B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験の技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1)①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2)②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3)心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 心と身体の関係-精神生理学-(木場) 2 ストレスと心拍数の実験実施&レポート作成(木場) 3 身体状態の変化の心への影響の実験実施&レポート作成(木場) 4 要求水準 (安原) 5 ミューラーリヤー錯視(安原) 6 ミューラーリヤー錯視のレポート作成(安原) 7 両側性転移の実験実施&レポート作成(中田) 8 係留効果の実験実施(中田) 9 係留効果のレポート作成(中田) 10 同調行動実験&レポート(久津木) 11 パーソナルスペース(久津木) 12 パーソナルスペース実験&レポート作成(久津木) 13 自由実験：立案・計画(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：実施・分析(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 15 自由実験：レポート作成(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B／心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・中田・安原					科目ナンバ-	P0203B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) ③心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 心と身体の関係-精神生理学-(木場) 2 ストレスと心拍数の実験実施&レポート作成(木場) 3 身体状態の変化の心への影響の実験実施&レポート作成(木場) 4 要求水準 (安原) 5 ミューラーリヤー錯視(安原) 6 ミューラーリヤー錯視のレポート作成(安原) 7 両側性転移の実験実施&レポート作成(中田) 8 係留効果の実験実施(中田) 9 係留効果のレポート作成(中田) 10 同調行動実験&レポート(久津木) 11 パーソナルスペース(久津木) 12 パーソナルスペース実験&レポート作成(久津木) 13 自由実験：立案・計画(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：実施・分析(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 15 自由実験：レポート作成(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B／心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・木場・中田・安原					科目ナンバ-	P0203B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の実験						
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。						
到達目標	1) ①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2) ②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3) 心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。						
授業計画	1 心と身体の関係-精神生理学-(木場) 2 ストレスと心拍数の実験実施&レポート作成(木場) 3 身体状態の変化の心への影響の実験実施&レポート作成(木場) 4 要求水準 (安原) 5 ミューラーリヤー錯視(安原) 6 ミューラーリヤー錯視のレポート作成(安原) 7 両側性転移の実験実施&レポート作成(中田) 8 係留効果の実験実施(中田) 9 係留効果のレポート作成(中田) 10 同調行動実験&レポート(久津木) 11 パーソナルスペース(久津木) 12 パーソナルスペース実験&レポート作成(久津木) 13 自由実験：立案・計画(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 14 自由実験：実施・分析(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け) 15 自由実験：レポート作成(木場・安原・中田のいずれかのクラスに振り分け)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。						
授業方法	実験：グループワークを通して実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループ内でデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表(プレゼンテーション)する。						
評価基準と評価方法	授業への取り組み(50%)、レポート課題の評価(50%) 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。						
履修上の注意	3, 4限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席3回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては2回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 *欠席回数は自分で把握しておきましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学的支援法						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P32010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学的支援法にはどのようなものがあり、どのような支援を行うべきであるのかを学ぶ						
授業の概要	心理学的支援は、心理学的な支援を要する人たちと具体的に関わる実践的な活動である。そこでは、問題の適切な理解に基づいた、適切な支援が模索されなくてはならない。心理学的支援にはどのようなものがあり、それぞれどのような性質の問題に対して適切な関わり方なのか、そもそも心理学的支援とは何を目的に何を指して行われるべきなのかなどについて学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について概説できる。</li> <li>2. 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。</li> <li>3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を知る。</li> <li>4. 心理に関する支援を要する者のプライバシーへの配慮ができる。</li> <li>5. 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の適切なあり方を説明できる。</li> <li>6. 心の健康教育について概説できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：心理学的支援とは何か</li> <li>2. 力動的心理療法</li> <li>3. パーソンセンタード・アプローチ</li> <li>4. 行動療法・認知行動療法</li> <li>5. 家族療法・システム論的アプローチ</li> <li>6. 遊戯療法・表現療法</li> <li>7. 集団療法・グループアプローチ</li> <li>8. アセスメントと技法の選択</li> <li>9. 訪問による支援・地域支援</li> <li>10. 良好な関係を築くためのコミュニケーションの方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>11. プライバシーへの配慮</li> <li>12. 関係者に対する支援</li> <li>13. 心の健康教育</li> </ol> </li> <li>14. 心理学的支援における倫理的諸問題</li> <li>15. 授業のまとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと（60分）。</p> <p>授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（60分）。</p>						
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。						
評価基準と評価方法	到達目標の達成度と、発言やディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度などの授業時における学びに取り組む姿勢とを総合的に評価する。評価の配点は、期末試験（到達目標の達成度を評価）70%、平常点（リアクションペーパー及び学びに取り組む姿勢を評価）30%とする。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求められることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学統計法／統計基礎論						
担当教員	野口 智草					科目ナンバ-	P22030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理統計の基礎を理解する						
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力簡明な説明を心がけ、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。						
到達目標	(1) 心理学で用いられる統計手法が理解できる。 (2) 統計に関する基礎的な知識を持つことができる。						
授業計画	第1回 統計を学ぶ目的 第2回 変数とデータ 第3回 度数分布・代表値 第4回 標準偏差 (SD) 第5回 正規分布・標本と母集団 第6回 相関 第7回 前半まとめ・中間試験・パソコン実習 第8回 母集団の推定と真の標準偏差 第9回 推定誤差 (SE) 第10回 統計的検定 第11回 t 値 第12回 帰無仮説と対立仮説・p 値 第13回 対応のない t 検定・カイ2乗検定 第14回 分散分析 第15回 後半まとめ・期末試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	ほぼ毎回宿題を課します。内容はデータ集め、表やグラフ作成、統計的な値の計算など様々です (目安とする学習時間: 30分) 授業はそれまでの授業を理解しているものとして進行していきます。毎回授業内容を確認・整理し、理解できなかった点は質問できるように、疑問点を整理しておくようにしてください (目安とする学習時間: 30～1時間)						
授業方法	講義 第7回授業のみパソコン実習						
評価基準と評価方法	宿題 30% 中間テスト 30% 期末テスト 40% 宿題: 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 中間テスト・期末テスト: 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 宿題および中間テストは採点し、翌週返却する。期末テストは、結果の全体的な講評をフィードバックする。						
履修上の注意	全ての講義に出席することが望ましいです。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。 守れない学生には、即刻退席してもらいます。						
教科書	なし						
参考書	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』吉田寿夫 (著) 北大路書房 ISBN 4-7628-2125-X						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学統計法／統計基礎論						
担当教員	野口 智草					科目ナンバ-	P22030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理統計の基礎を理解する						
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力簡明な説明を心がけ、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。						
到達目標	(1) 心理学で用いられる統計手法が理解できる。 (2) 統計に関する基礎的な知識を持つことができる。						
授業計画	第1回 統計を学ぶ目的 第2回 変数とデータ 第3回 度数分布・代表値 第4回 標準偏差 (SD) 第5回 正規分布・標本と母集団 第6回 相関 第7回 前半まとめ・中間試験・パソコン実習 第8回 母集団の推定と真の標準偏差 第9回 推定誤差 (SE) 第10回 統計的検定 第11回 t 値 第12回 帰無仮説と対立仮説・p 値 第13回 対応のない t 検定・カイ2乗検定 第14回 分散分析 第15回 後半まとめ・期末試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	ほぼ毎回宿題を課します。内容はデータ集め、表やグラフ作成、統計的な値の計算など様々です (目安とする学習時間: 30分) 授業はそれまでの授業を理解しているものとして進行していきます。毎回授業内容を確認・整理し、理解できなかった点は質問できるように、疑問点を整理しておくようにしてください (目安とする学習時間: 30～1時間)						
授業方法	講義 第7回授業のみパソコン実習						
評価基準と評価方法	宿題 30% 中間テスト 30% 期末テスト 40% 宿題: 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 中間テスト・期末テスト: 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 宿題および中間テストは採点し、翌週返却する。期末テストは、結果の全体的な講評をフィードバックする。						
履修上の注意	全ての講義に出席することが望ましいです。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。 守れない学生には、即刻退席してもらいます。						
教科書	なし						
参考書	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』吉田寿夫 (著) 北大路書房 ISBN 4-7628-2125-X						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントA/心理テストA						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P2201A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。						
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
到達目標	(1) 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3) 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【知識・理解】 (4) 授業で取り上げた心理検査について、適切な記録の作成及び報告を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく（学習時間90分）。 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと（学習時間90分）。						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 レポート（40%）：レポートの内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 平常点（60%）：実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。  課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。						
履修上の注意	1. 実習を中心とするため、原則として欠席や遅刻は認めない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社 ISBN4-8210-6360-3						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントA/心理テストA						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P2201A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。						
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
到達目標	(1) 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3) 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【知識・理解】 (4) 授業で取り上げた心理検査について、適切な記録の作成及び報告を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく（学習時間90分）。 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと（学習時間90分）。						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 レポート（40%）：レポートの内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 平常点（60%）：実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。  課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。						
履修上の注意	1. 実習を中心とするため、原則として欠席や遅刻は認めない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社 ISBN4-8210-6360-3						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントA/心理テストA						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P2201A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。						
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。						
到達目標	(1) 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3) 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【知識・理解】 (4) 授業で取り上げた心理検査について、適切な記録の作成及び報告を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく（学習時間90分）。 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと（学習時間90分）。						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 レポート（40%）：レポートの内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 平常点（60%）：実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。  課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。						
履修上の注意	1. 実習を中心とするため、原則として欠席や遅刻は認めない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社 ISBN4-8210-6360-3						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントB/心理テストB						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P2201B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	投映法の学習						
授業の概要	<p>心理的アセスメントについて、「投映法」といわれる心理検査法を中心に習する。          具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。          それらの学習を通じて、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について学ぶ。</p>						
到達目標	<p>①心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【態度・志向性】          ②心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】          ③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【汎用的技能】          ④授業で実施した投映法心理検査について、適切な記録の作成ならびに報告を行うことができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>#01：オリエンテーションー心理的アセスメントにおける投映法          #02：描画法①ーバウム・テスト          #03：描画法②ー人物画テスト          #04：描画法③ーS-HTP          #05：描画法④ー風景構成法          #06：SCT①ー理論と施行法          #07：SCT②ー結果の整理と解釈          #08：PFスタディ①ー理論と施行法          #09：PFスタディ②ー結果の整理(1) スコアリング          #10：PFスタディ③ー結果の整理(2) スコアリング/各種指標の算出          #11：PFスタディ④ー結果の整理(3) 各種指標の算出          #12：PFスタディ⑤ー結果の解釈          #13：ロールシャッハ・テスト          #14：TAT（主題統覚検査）          #15：まとめ、レポート提出</p> <p>※授業進度によっては、検査種が増減する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語、あるいは検査について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「投映法」、#02は「バウム・テスト」など：学習時間90分）。          授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をするとともに、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めること。また、授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておくこと（学習時間90分）。</p>						
授業方法	講義（演習、実習の内容を含む）。						
評価基準と評価方法	<p>毎回の小レポート（50%）：その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想の提出を求める（到達目標①～③のいずれかについての到達確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。          検査所見レポート（50%）：実施した検査を用いての自己分析所見レポートの提出を求める（到達目標④の到達確認）。レポートの作成に際しては、採点基準（ルーブリック）を配布する。</p>						
履修上の注意	<p>テスト体験が必須となる授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。          自分自身を被検者として検査実習を行うことが必要であるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。          毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。          私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不許可とする場合もある。</p>						
教科書	なし。						
参考書	授業内で、適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントB/心理テストB						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P2201B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	投射法の学習						
授業の概要	<p>心理的アセスメントについて、「投射法」といわれる心理検査法を中心に習する。          具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。          それらの学習を通じて、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について学ぶ。</p>						
到達目標	<p>①心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【態度・志向性】          ②心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】          ③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【汎用的技能】          ④授業で実施した投射法心理検査について、適切な記録の作成ならびに報告を行うことができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>#01：オリエンテーションー心理的アセスメントにおける投射法          #02：描画法①ーバウム・テスト          #03：描画法②ー人物画テスト          #04：描画法③ーS-HTP          #05：描画法④ー風景構成法          #06：SCT①ー理論と施行法          #07：SCT②ー結果の整理と解釈          #08：PFスタディ①ー理論と施行法          #09：PFスタディ②ー結果の整理(1) スコアリング          #10：PFスタディ③ー結果の整理(2) スコアリング/各種指標の算出          #11：PFスタディ④ー結果の整理(3) 各種指標の算出          #12：PFスタディ⑤ー結果の解釈          #13：ロールシャッハ・テスト          #14：TAT（主題統覚検査）          #15：まとめ、レポート提出</p> <p>※授業進度によっては、検査種が増減する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語、あるいは検査について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「投射法」、#02は「バウム・テスト」など：学習時間90分）。          授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をするとともに、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めること。また、授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておくこと（学習時間90分）。</p>						
授業方法	講義（演習、実習の内容を含む）。						
評価基準と評価方法	<p>毎回の小レポート（50%）：その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想の提出を求める（到達目標①～③のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。          検査所見レポート（50%）：実施した検査を用いての自己分析所見レポートの提出を求める（到達目標④の到達度確認）。レポートの作成に際しては、採点基準（ルーブリック）を配布する。</p>						
履修上の注意	<p>テスト体験が必須となる授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。          自分自身を被検者として検査実習を行うことが必要であるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。          毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。          私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不許可とする場合もある。</p>						
教科書	なし。						
参考書	授業内で、適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理の仕事						
担当教員	単位認定者：久津木 文					科目ナンバ-	P72070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	職業としての心理学						
授業の概要	心理学の専門性を活かして様々な現場で活躍する職業人に、オムニバス形式で講義をお願いする。						
到達目標	1) 社会の中の様々な領域で、心理学の知識が活かされていることを知り、自らの学びを社会に活かすことを考えられるようになる【態度・志向性】 2) 自分自身の適性等を考え、将来像を描けるようになる【態度・志向性】						
授業計画	1 および15回目以外はゲストスピーカーを招へいする。 1. イントロダクション/大学院でプロフェッショナルを目指すということ 2. 医療事務で心理の知識をどういかせるか 3. 大学病院での心理の仕事 4. 療育支援での心理の仕事 5. アニマルセラピストという仕事 6. 教育センターでの心理の仕事 7. 小学校でのスクールソーシャルワーカーの仕事 8. スクールカウンセラーの仕事 9. 児童指導員の仕事 10. 福祉施設における心理の仕事 11. 児童の施設における心理の仕事 12. 金融機関における心理の仕事 13. 緩和ケアにおける心理の仕事 14. 県警での被害者支援カウンセラーの仕事 15. 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前に、各回のテーマについて調べある程度知識を得ておく（1時間）。 授業後学習：話しを聞いてから、各回の話に関連する文献等を読み理解を深める（1時間）。						
授業方法	オムニバスの講義形式						
評価基準と評価方法	平常点（50%）、毎回の小レポート（50%）により評価する。 平常点：受講時の態度、および、授業への参加の程度を総合的に評価する。 小レポート：毎回、授業の最後に小レポートを実施する。総合得点を小レポートの評価とする。						
履修上の注意	講師の先生方は、いずれも学外の専門家の方々である。私語、居眠り、遅刻、早退といった失礼な態度をとることは厳に慎まなければならない。受講態度に問題があると判断した学生は、受講を不可とする場合もある。 なお、講師の都合その他により、授業の予定に変更が生じる場合があることに注意。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 出欠・欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	指定しない。						
参考書	指定しない。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法I						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P3305A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ - I. 精神分析と精神分析的な心理療法						
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。「心理療法I」では、精神分析と精神分析的な心理療法を学ぶ。精神分析とは、Freud, S.により創始された心理学理論、かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また、精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を、精神分析的な心理療法という。この授業では、精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに、精神分析的な心理療法の実践について学習する。						
到達目標	①Freudの精神分析の考え方や概念について、4つの基本的な観点から説明することができる。【知識・理解】 ②Freud以降の精神分析の発展について、主な学派とそれらの特徴を解説することができる。【知識・理解】 ③精神分析、精神分析的な心理療法の技法について、専門用語を用いて説明することができる。【知識・理解】 ④心に関する現象を、精神分析的な視点から説明できる。【態度・志向性】						
授業計画	#01: オリエンテーション-精神分析・精神分析的な心理療法とは？ #02: 精神分析の基本的観点①: 局所論/構造論 #03: 精神分析の基本的観点②: 力動論 #04: 精神分析の基本的観点③: 経済論 #05: 精神分析の基本的観点④: 発達論 #06: 精神分析の技法①: 催眠から自由連想へ #07: 精神分析の技法②: 転移、逆転移、中立性 #08: 精神分析の発展①: アドラーとユング #09: 精神分析の発展②: 精神分析の学派(1)-自己心理学・対象関係論 #10: 精神分析の発展③: 精神分析の学派(2)-自己心理学・対人関係論 #11: 精神分析の発展④: 対象の拡大 #12: 精神分析と精神分析的な心理療法①: 精神分析の基礎にあるもの #13: 精神分析と精神分析的な心理療法②: 精神分析の新しい流れ #14: まとめ、試験 #15: 試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「精神分析」「精神分析的な心理療法」、#02は「局所論」「構造論」、など。：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること（学習時間90分）。						
授業方法	講義形式。毎回の授業において、学んだ内容について考えるワークを、小レポートの形式で作成・提出させる。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）：毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）の提出を求める（到達目標①～④のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。 期末試験（86%）：客観式ならびに論述式の試験を行う（到達目標①～④の到達度確認）。#15に解答例を配布する。						
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。						
教科書	なし。						
参考書	小此木啓吾・馬場謙一（編） 1977 フロイト精神分析入門 有斐閣新書 ISBN：978-4641087101 土居健郎 1988 精神分析 講談社学術文庫 ISBN：978-4061588516 その他、授業内で適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法Ⅱ						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P3305B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ。 -Ⅱ. 子どもの心理療法						
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じた様々な心理療法について学ぶ。 「心理療法Ⅱ」では乳幼児期から児童期までの間に子どもが呈する様々な心理症状についての知識を得る。そして子どもにとって身近な他者である家族の心理について同時に考えることで、子どもの援助を多面的な視点から学ぶ。						
到達目標	1.乳幼児期から児童期に至る子どもの呈する心理症状や障害(がい)についての基礎的な知識を得て、人に説明ができる。【知識・理解】 【汎用的技能】 2.子どもやその家族の心的援助について様々な立場からできることを考える視点を持つことができる。【態度・志向性】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション ～子どもの臨床とは～ 第2回：子どもの心や症状について考えるための基本的な理解 第3回：プレイセラピーとは 第4回：ケースから学ぶ～実際の子どものセラピーの様子について文献記録を読み解く～ 第5回：乳児期に見られる症状とその援助①反応の弱い子、過敏な子、育てやすい子 第6回：乳児期に見られる症状とその援助②発達早い子、ゆっくりな子 第7回：幼児期に見られる症状とその援助①夜驚症、チック障害 第8回：幼児期に見られる症状とその援助②緘黙症、強迫性障害 第9回：体験から学ぶ～①乳幼児期のセラピーの技法を体験してみよう～ 第10回：アタッチメント理論を基にした子どもの理解と親への援助 第11回：親子の関係性そのものの理解と援助の技法を学ぶ～セラプレイとは～ 第12回：体験から学ぶ～②セラプレイ的遊びを体験してみよう～ 第13回：児童期に見られる症状とその援助①不登校 第14回：児童期に見られる症状とその援助②発達障害 第15回：総まとめと試験 ～仮想事例の検討～						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して、参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに、子どもや家族に関するテレビや小説、映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。(作品紹介を各回の感想シートにて求める)(学習時間：90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：90分)						
授業方法	基本的に講義を中心とした比較的専門性の高い内容とする。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度(30%)：到達目標1の達成度確認 中間レポート(30%)：到達目標1、2の達成度確認 期末試験(40%)：到達目標1、2の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 レポートや試験に関しても、重要な内容は適宜紹介や振り返りを行う。						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	鵜飼奈津子(2010)子どもの精神分析的な心理療法の基本. 誠信書房. ISBN: 978-4-414-40060-1 木部則雄(2006)こどもの精神分析 クライン派・対象関係論からのアプローチ. 岩崎学術出版社 ISBN: 978-4753306091						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法III						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P3305C
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ Ⅲ. 家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際						
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。「心理療法Ⅲ」では、家族システムやコミュニケーション・システムの変化をめざした心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義的心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。						
到達目標	1. 家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの主要な理論と用語について説明することができる。 2. 身近な心の問題について、家族療法やブリーフセラピーの概念や用語を用いて解説し、解決策について提案することができる。						
授業計画	第1回：心理療法における「問題」の捉え方 第2回：さまざまな心理援助の技法と家族療法、ブリーフセラピー 第3回：家族療法の理論と実際（1）家族療法とシステム論 第4回：家族療法の理論と実際（2）家族療法の実際 第5回：ブリーフセラピー概論 第6回：ミルトン・エリクソンの心理療法 第7回：MRIモデルの理論と技法（1）変化の理論 第8回：MRIモデルの理論と技法（2）コミュニケーション理論 第9回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（1）基本的な考え方と特徴 第10回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（2）解決構築とは？ 第11回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（3）質問技法の実際 第12回：ナラティブ・セラピー（1）社会構成主義の理論 第13回：ナラティブ・セラピー（2）会話の実際 第14回：ナラティブ・セラピー（3）事例を中心に 第15回：試験と総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について家族療法やブリーフセラピーの関連書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	講義形式：授業中に与えられたテーマに関して、ペアもしくはグループでディスカッションし、報告してもらう。報告した内容について、解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（リアクションペーパー）：20%、中間テスト40%、期末テスト40% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容の・記述的確さなどを評価する。到達目標1および2に関する到達度の確認。 中間テストと期末テスト：授業で扱った心理療法の理論と技法についての理解度について評価する。到達目標1および2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントについては、次の回に限って再配布する。 リアクションペーパーについては、クラス内において開示されても良い内容について記述すること。						
教科書	プリント資料を配布する。						
参考書	遊佐安一郎著「家族療法入門—システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東 豊著「心理療法テクニックのススメ」金子書房						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法Ⅳ						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P3305D
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ Ⅳ. 対人関係精神分析とパーソンセンタード・アプローチ						
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。「心理療法Ⅳ」では、対人関係精神分析とパーソンセンタード・アプローチについて学ぶ。対人関係精神分析は、サリヴァンを源流とする考え方であり、フロイトの精神分析がより生物学的要因を重視するものであったのに対して、社会的要因を重視したことに特徴がある。また、パーソンセンタード・アプローチは、ロジャースを源流とする考え方であり、クライアントの経験を重視する立場である。いずれも北米で発展したこれらの立場の基本的な考え方と技法を学ぶ。						
到達目標	1. 対人関係精神分析の基本的な考え方と心理療法の進め方を説明できる。 2. パーソンセンタード・アプローチの基本的な考え方と心理療法の進め方を説明できる。						
授業計画	1. オリエンテーション：北米で発展した二つのアプローチ 2. 対人関係精神分析を学ぶ(1)：基本的な考え方 3. 対人関係精神分析を学ぶ(2)：その歴史 4. 対人関係精神分析を学ぶ(3)：クライアントに耳を傾けること 5. 対人関係精神分析を学ぶ(4)：クライアントを理解すること 6. 対人関係精神分析を学ぶ(5)：クライアントに応答すること 7. 対人関係精神分析を学ぶ(6)：初期面接とアセスメントの進め方 8. 対人関係精神分析を学ぶ(7)：面接中期の展開 9. 対人関係精神分析を学ぶ(8)：面接の終結 10. 対人関係精神分析を学ぶ(9)：現代精神分析の中の位置付け 11. パーソンセンタード・アプローチを学ぶ(1)：ロジャースとジェンドリン 12. パーソンセンタード・アプローチを学ぶ(2)：カウンセラーの三条件 13. パーソンセンタード・アプローチを学ぶ(3)：クライアントの体験過程 14. パーソンセンタード・アプローチを学ぶ(4)：フォーカシング指向心理療法 15. 授業のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと(60分)。 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること(60分)。						
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。						
評価基準と評価方法	到達目標の達成度と、発言やディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度などの授業時における学びに取り組む姿勢とを総合的に評価する。評価の配点は、期末試験(到達目標の達成度を評価)70%、平常点(リアクションペーパー及び学びに取り組む姿勢を評価)30%とする。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	鐘幹八郎(監修)「精神分析的心理療法の手引き」誠信書房 1998 池見陽(著)「心のメッセージを聴く」講談社現代新書 1995 その他、授業中に適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	ジェンダーの心理学						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P43050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダー（男女の社会的役割）についての心理学を学ぶ						
授業の概要	男女に対する固定観念が、ジェンダー・ステレオタイプである。本講義では、ジェンダー・ステレオタイプがなぜ作られ、それがどのように維持されるのか、あるいはいかに変容するかを社会心理学の知見に基づき学習する。						
到達目標	個人の心の中にジェンダーが浸透していることに気づくことができる。 その心の中のジェンダーによりステレオタイプが生まれ、ジェンダー社会を維持するしくみを理解することができる。 ジェンダー・ステレオタイプから自由に生きるための方法を習得することができる。						
授業計画	第1回 ジェンダーへの心理学的アプローチ 第2回 セックスとジェンダー 第3回 ジェンダー・ステレオタイプの形成と維持 第4回 ジェンダー・スキーマ 第5回 集団とジェンダー・ステレオタイプ 第6回 性別分業社会とジェンダー・ステレオタイプ 第7回 ジェンダーの社会化（1）子ども自身の認知発達 第8回 ジェンダーの社会化（2）子どもを取り巻く環境 第9回 夫婦、男女間のコミュニケーション 第10回 ジェンダーによる心身への影響1 第11回 ジェンダーによる心身への影響2 -精神疾患の性差、役割行動- 第12回 心理学の学問におけるジェンダー・ステレオタイプ 第13回 ジェンダー・ステレオタイプの軽減 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 前期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式 毎回の授業内容について、座席の近いペア同士が1分間ずつで説明し合う。						
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）30％，定期試験70％						
履修上の注意	座席指定						
教科書	「ジェンダーの心理学」 青野篤子・森永康子・土肥伊都子（著）（ミネルヴァ書房） ISBN:9784623041534						
参考書							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	情報社会の心理学						
担当教員	村上 幸史					科目ナンバ-	P43030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	情報社会の心理学						
授業の概要	日常生活でわれわれは多くの情報に触れています。このように目や耳にする情報は、どのように伝わり、どのように受け取られるでしょうか。この講義ではその心理的特徴のうち、特に対人関係や信頼性の側面に注目して、いくつかの事例を通して解説をしていきます。						
到達目標	情報の伝達や受け取り方について、自分なりに解釈できるようになる。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 情報の理論</p> <p>第3回 うわさ (1) うわさの理論</p> <p>第4回 うわさ (2) うわさと風評被害</p> <p>第5回 ネットワーク (1) 「ともだち」より</p> <p>第6回 ネットワーク (2) 6次のへだたり</p> <p>第7回 SNSと対人関係 (1) 友人の希薄化理論と選択的關係</p> <p>第8回 SNSと対人関係 (2) 返報性と社会的交換</p> <p>第9回 流行</p> <p>第10回 スケープゴートینگ (1) 攻撃行動と非難</p> <p>第11回 スケープゴートینگ (2) JR脱線事故と感染症の報道から</p> <p>第12回 スケープゴートینگ (3) 不謹慎とは</p> <p>第13回 予言とその心理 (1) なぜ当たるのか、占いを例として</p> <p>第14回 予言とその心理 (2) 言霊の心理</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>※進行内容により、回数等を調整することがあります。</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	テーマあるいは講義の最後に、話したテーマの要点を配布または説明しますので、復習するようにしておいてください。この講義では覚えておくべき理論が大量にあるわけではないですが、その代わりに現実のニュースなどにも積極的に興味を持って触れておくこと (新聞やネットニュースなどを読むようにすることが望ましい (学習時間:1時間))。講義内で取り上げます。						
授業方法	講義形式 内容に応じてディスカッションを導入する						
評価基準と評価方法	レポート (1回)、講義内での試験 (1回)、各40%、講義中の課題20%						
履修上の注意	私語など他者に迷惑をかける行為は絶対に慎むこと。 状況により、退出してもらったり、以後の受講を認めないことがあります。						
教科書							
参考書	「スケープゴートینگ」 釘原直樹 (編) 有斐閣						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	精神疾患とその治療／心の医学						
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	P32100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学に関連が深い医学領域である、精神疾患・心身症・向精神薬について学ぶ。						
授業の概要	精神医学・心身医学・精神薬理学といった分野は、心理学との関連が極めて深く、心理学の学びが大いに活用される分野である。また、これらに関する知識は保健・医療分野のみならず、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働といった心理学に関する様々な分野での心理臨床において必要とされる。にもかかわらず、心理職の多くがこうした知識を十分に身に着けているとは言い難く、また患者本人やその家族、その他の関係者の理解も極めて乏しいと言える。 本講義では、精神医学・心身医学を概観した上で、代表的な精神疾患・心身症について学習する。また、向精神薬について学ぶ中で、各疾患への対応についても理解を深める。						
到達目標	1. 精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）について説明できる。【知識・理解】 2. 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について説明できる。【知識・理解】 3. 医療機関との連携について説明できる。【知識・理解】 4. 心身症総論（代表的な心身症についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）について説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、心の問題と心理学・医学、精神医学総論 第2回 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群 第3回 抑うつ障害群、双極性障害および関連障害群 第4回 不安症群/不安障害群 第5回 強迫性障害および関連障害群、心的外傷およびストレス因関連障害群 第6回 神経発達症群/神経発達障害群 第7回 心身医学総論 第8回 消化器系の心身症 第9回 慢性疼痛症候群、神経・筋肉系の心身症 第10回 循環器・呼吸器・アレルギー系の心身症 第11回 内分泌・代謝系の心身症 第12回 心身症の治療 第13回 向精神薬① 抗精神病薬・抗うつ薬 第14回 向精神薬② 抗不安薬・催眠鎮静剤 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：医療領域に関連する心理学の専門書を読み、精神疾患や心身症に関する知識を事前に得ておく。（学習時間：60分） 授業後学習：時間の都合上、すべての精神疾患および心身症について学習することはできないので、講義で扱わない内容については各自で書籍などを通じて理解を深める。（学習時間：120分）						
授業方法	資料を提示しながら講義を進める。（一部の精神疾患および心身症については、アセスメント法や治療法を体験する演習も行う）						
評価基準と評価方法	・小レポート40%：各回提出のリアクションペーパーにより受講態度および理解度を評価する（到達目標1.～4.に関する到達度の確認） ・試験 60%（到達目標1.～4.に関する到達度の確認）						
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントについては、manaba上で入手して、次の授業に臨むこと。						
教科書	なし						
参考書	・『公認心理士必携 精神医療・臨床心理の知識と技法』、下山晴彦・中嶋義文、医学書院、ISBN 9784260027991 ・『最新医学 別冊 新しい診断と治療のABC78 精神8 心身症』、久保千春、最新医学社、						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	成人期・老年期の臨床心理学						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P33080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	成人期・老年期の心理的課題と危機						
授業の概要	本講義では、成人期および老年期における心理的な発達や発達課題、またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で、それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。						
到達目標	①成人期・老年期の心理学的特徴について、説明できる。【知識・理解】 ②成人期・老年期に生じやすい心理学的問題について、説明できる。【知識・理解】 ③自らのライフサイクルにおける成人期・老年期の意味について推測・考察し、論述できる。【知識・理解】						
授業計画	#01：オリエンテーションー生涯発達論的視座から見た成人期と老年期 #02：成人期の心理学的特徴と発達課題 #03：結婚・妊娠・出産 #04：子育て #05：職場における問題（1）：ストレスとメンタルヘルス #06：職場における問題（2）：うつ病と自殺 #07：老親の介護における心理的問題 #08：中年期危機 #09：老年期の心理学的特徴と発達課題 #10：認知症 #11：老年期うつと妄想 #12：老年期における喪失体験 #13：老年期における死の問題 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「生涯発達論」、#02は「成人期」「発達課題」、など：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること（学習時間90分）。						
授業方法	講義形式。毎回の授業において、学んだ内容について考えるワークを、小レポートの形式で作成・提出させる。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）：毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）の提出を求める（到達目標①～③のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。 期末試験（86%）：客観式ならびに論述式の試験を行う（到達目標①～④の到達度確認）。#15に解答例を配布する。						
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。						
教科書	なし。						
参考書	授業内で、適時紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生と死の心理学						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P43090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	生と死を学ぶ。						
授業の概要	病院やコミュニティなど臨床の場における生と死をめぐる問題について概観し、そこで必要とされる援助について考える。具体的には、死別後の悲嘆、外傷的死別（災害、犯罪・事故、自殺など）、グリーフカウンセリング、末期患者と家族の心理、病名告知、ホスピス緩和ケアなどを取り上げ、さまざまな観点から死についての理解を深める。また、臓器移植など生命倫理にも触れ、現代の死の諸相について広く学ぶ。講義の他に、ロールプレイなどの実習やビデオ教材も適宜取り入れる。						
到達目標	(1) 生と死をめぐる問題について心理学的に考察し、説明することができる。【知識・理解】 (2) 誰もが避けることのできない死について心理学的に学ぶことで、実際に身近に起こったときのようにすればよいか考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：ストレス源としての死別体験 第2回：喪失と悲嘆に関する諸理論 第3回：通常の悲嘆反応と複雑な悲嘆反応 第4回：悲嘆の複雑化と関連要因 第5回：さまざまな喪失(1)自然災害～子どもへの影響 第6回：さまざまな喪失(2)大規模事故・犯罪～二次被害 第7回：さまざまな喪失(3)自殺・ペットロス～公認されない悲嘆 第8回：ケアを行う際の基本的姿勢 第9回：支援の方法～グリーフカウンセリング・複雑性悲嘆治療（実習を含む） 第10回：病名の告知 第11回：ホスピス緩和ケアとQOL 第12回：末期患者の心理と家族のケア 第13回：生命倫理～臓器移植 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書や参考書を事前に熟読する。また、授業では小グループでの発表を予定しているため、各自が関心を持ったテーマについて調べ、発表資料を用意する（学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間90分）。						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。  課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。						
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	『死を学ぶ』 柏木哲夫（著）有斐閣 ISBN4-641-07582-4						
参考書	『「悲しみ」の後遺症をケアする—グリーフケア・トラウマケア入門』 小西聖子・白井明美（著）角川学芸出版 ISBN978-4-04-651613-8 『悲嘆学入門—死別の悲しみを学ぶ』 坂口幸弘（著）昭和堂 ISBN978-4-8122-1015-4						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P32070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	青年期に関連の深いさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。自立、就労、恋愛などの身近なテーマ、また青年期に好発する精神疾患と心理療法的介入に関する臨床心理学的理論やモデルを紹介し、身近な素材や事例を用いて考え、理解を深めます。ワークや発表を通じて自らの考えや理解した内容を言語化し、その成果を共有します。						
到達目標	(1) 青年期に関連の深い諸課題について、臨床心理学的な観点から考え、説明することができる。【知識・理解】 (2) 授業を通じて得た理解を、自分自身や日常生活上の諸課題に応用できる、また、それを言語化し他者と共有できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 生涯発達における青年期 ~おとなになるってどういうこと?~ 第2回 青年期の親子関係 ~反抗期は必要?~ 第3回 青年期の恋愛(1) ~恋愛は必要?~ 第4回 青年期の恋愛(2) ~DV・ストーカーの心理~ 第5回 青年期の就活・就職(1) ~働くってどういうこと?~ 第6回 青年期の就活・就職(2) ~働くという社会参加~ 第7回 ニート・ひきこもりの心理(1) ~働かないってどういうこと?~ 第8回 ニート・ひきこもりの心理(2) ~働かないという社会参加~ 第9回 青年期の犯罪(1) ~受容され難い存在と表現~ 第10回 青年期の犯罪(2) ~精神鑑定というつながり~ 第11回 青年期の精神疾患(1) ~うつと自殺~ 第12回 青年期の精神疾患(2) ~統合失調症~ 第13回 青年期の精神疾患(3) ~心理療法というつながり~ 第14回 調査実践課題の発表 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 参考書の購読(1時間)。 授業後学習: 課題(1時間)。						
授業方法	講義、演習(プレゼンテーション、ディスカッション)。						
評価基準と評価方法	期末試験(持ち込み可: 40%): 到達目標(1)に関する到達度の確認。 平常点(授業への参加・貢献、授業レポート、課題、素材カード 60%): 到達目標(2)に関する到達度の確認。 課題: ①授業内ワークのまとめと発表、②活動実践のまとめと発表、③レポート作成、④素材カード ※①から③から1つ以上を選択すること。④は任意選択とする。						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	各自が選んだテーマに沿って研究を計画・実施し、卒業論文としてまとめる。進行状況に応じて中間発表会を行うが、全体的には個別指導が中心となる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画に基づき、調査や実験を実施することができる。【汎用的技能】</li> <li>2. 得られたデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【汎用的技能】</li> <li>3. 卒論発表会において、卒業論文の内容を分かりやすく発表することができる。【汎用的技能】</li> </ol>						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマの決定 (1) 第3回：研究テーマの決定 (2) 第4回：研究計画の立案 (1) 第5回：研究計画の立案 (2) 第6回：研究計画の立案 (3) 第7回：研究計画の立案 (4) 第8回：調査・実験の準備 (1) 第9回：調査・実験の準備 (2) 第10回：調査・実験の準備 (3) 第11回：調査・実験の準備 (4) 第12回：調査・実験の準備 (5) 第13回：データ収集 (1) 第14回：データ収集 (2) 第15回：データ収集 (3) 第16回：卒論中間発表会 第17回：データの入力と分析 (1) 第18回：データの入力と分析 (2) 第19回：データの入力と分析 (3) 第20回：データの入力と分析 (4) 第21回：論文執筆 (1) 第22回：論文執筆 (2) 第23回：論文執筆 (3) 第24回：論文執筆 (4) 第25回：論文執筆 (5) 第26回：校正 (1) 第27回：校正 (2) 第28回：校正 (3) 第29回：卒論発表会の準備 第30回：卒論発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	調査・実験の実施やデータ処理、論文執筆等は各自のペースで自主的に進めること。 授業前学習：関連する論文を収集し資料にまとめる（学習時間 2時間） 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備（学習時間 2時間）						
授業方法	演習形式による授業と個別指導						
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢（50%）と卒業論文（50%）。 研究に取り組む姿勢：主体的、計画的に研究を進めていく態度や能力を評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 卒業論文：最終的に提出された卒業論文を評価する。到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	主体的に研究に取り組む姿勢が求められる。						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究の調査と論文執筆						
授業の概要	心理学演習で練ってきた卒業研究の計画を実施し論文としてまとめる作業及び調査結果や成果の報告。						
到達目標	1) 自らの興味を調べるために実際に実験・調査を行うことができるようになる【汎用的技能】 2) 集めたデータを分析し、論理的に考察したうえで、卒業論文を執筆できるようになる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション・卒業研究実施スケジュールの確認 第2回 研究計画の発表(1) 第3回 研究計画の発表(2) 第4回 実験・調査実施準備(1) 第5回 実験・調査実施準備(2) 第6回 実験・調査実施準備(3) 第7回 実験・調査の仮実施(1) 第8回 実験・調査の仮実施(2) 第9回 実験・調査方法の変更・改善(1) 第10回 実験・調査方法の変更・改善(2) 第11回 実験・調査の実施(1) 第12回 実験・調査の実施(2) 第13回 実験・調査の実施(3) 第14回 データの入力と処理(1) 第15回 データの入力と処理(2) 第16回 データの入力と処理(3) 第17回 方法、結果の発表(1) 第18回 方法、結果の発表(2) 第19回 論文執筆(序論1) 第20回 論文執筆(序論2) 第21回 論文執筆(序論3) 第22回 論文執筆(結果1) 第23回 論文執筆(結果2) 第24回 論文執筆(考察1) 第25回 論文執筆(考察2) 第26回 問題、考察の発表と討論(1) 第27回 問題、考察の発表と討論(2) 第28回 文献リストの作成 第29回 要約、資料の作成 第30回 論文の仕上げ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	卒業論文については授業時間で教えられることは限られている。 自主的に進めている実験・調査、論文執筆等の作業の報告や確認作業を授業では行うため、その他の部分は授業外で自主的に進める必要がある。 授業前学習：論文検索、論文講読、資料まとめ作業(3時間以上)。 授業後学習：授業での発表時のコメントや意見を熟考し、資料の修正など次のステップに進む準備(2時間以上)。						
授業方法	演習：各自のテーマについて調べたものや分析したものを発表しグループディスカッションを行いながら、考察を深め論文を執筆する。						
評価基準と評価方法	授業態度(60%)、最終論文(40%) 授業態度：自主的に研究を進めていく態度・能力を総合的に評価する。 最終論文：最終的に提出された卒業論文を評価する。						
履修上の注意	3年次の春休みの間にできるだけ作業を進めておくことを強く推奨する。 夏休み中に調査や実験を行う可能性あり。実験・調査実施場所への交通費等や必要資料の購入等は自己負担となる。						

教科書	適宜資料を配布
参考書	適宜資料を配布

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P04060
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究の調査と論文執筆						
授業の概要	心理学演習で練ってきた卒業研究の計画を実施し論文としてまとめる作業及び調査結果や成果の報告。						
到達目標	1) 自らの興味を調べるために実際に実験・調査を行うことができるようになる【汎用的技能】 2) 集めたデータを分析し、論理的に考察したうえで、卒業論文を執筆できるようになる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション・卒業研究実施スケジュールの確認 第2回 研究計画の発表(1) 第3回 研究計画の発表(2) 第4回 実験・調査実施準備(1) 第5回 実験・調査実施準備(2) 第6回 実験・調査実施準備(3) 第7回 実験・調査の仮実施(1) 第8回 実験・調査の仮実施(2) 第9回 実験・調査方法の変更・改善(1) 第10回 実験・調査方法の変更・改善(2) 第11回 実験・調査の実施(1) 第12回 実験・調査の実施(2) 第13回 実験・調査の実施(3) 第14回 データの入力と処理(1) 第15回 データの入力と処理(2) 第16回 データの入力と処理(3) 第17回 方法、結果の発表(1) 第18回 方法、結果の発表(2) 第19回 論文執筆(序論1) 第20回 論文執筆(序論2) 第21回 論文執筆(序論3) 第22回 論文執筆(結果1) 第23回 論文執筆(結果2) 第24回 論文執筆(考察1) 第25回 論文執筆(考察2) 第26回 問題、考察の発表と討論(1) 第27回 問題、考察の発表と討論(2) 第28回 文献リストの作成 第29回 要約、資料の作成 第30回 論文の仕上げ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	卒業論文については授業時間で教えられることは限られている。 自主的に進めている実験・調査、論文執筆等の作業の報告や確認作業を授業では行うため、その他の部分は授業外で自主的に進める必要がある。 授業前学習：論文検索、論文講読、資料まとめ作業(3時間以上)。 授業後学習：授業での発表時のコメントや意見を熟考し、資料の修正など次のステップに進む準備(2時間以上)。						
授業方法	演習：各自のテーマについて調べたものや分析したものを発表しグループディスカッションを行いながら、考察を深め論文を執筆する。						
評価基準と評価方法	授業態度(60%)、最終論文(40%) 授業態度：自主的に研究を進めていく態度・能力を総合的に評価する。 最終論文：最終的に提出された卒業論文を評価する。						
履修上の注意	3年次の春休みの間にできるだけ作業を進めておくことを強く推奨する。 夏休み中に調査や実験を行う可能性あり。実験・調査実施場所への交通費等や必要資料の購入等は自己負担となる。						

教科書	適宜資料を配布
参考書	適宜資料を配布

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての調査・実験等の研究を行い、その成果を卒業論文としてまとめ上げる。						
到達目標	1. 自分自身の研究テーマについて、適切な方法を用いて研究を進めることができる。【汎用的技能】 2. 形式にのっとり、卒業論文を執筆することができる。【汎用的技能】 3. パワーポイント等を介して自身の研究成果を要約して他者に発表することができる。【汎用的技能】【知識・理解】						
授業計画	第1回：卒業研究テーマの最終検討① 第2回：卒業研究テーマの最終検討② 第3回：卒業研究テーマの最終検討③ 第4回：研究方法の最終検討と予備調査① 第5回：研究方法の最終検討と予備調査② 第6回：研究方法の最終検討と予備調査③ 第7回：データの収集と入力① 第8回：データの収集と入力② 第9回：データの収集と入力③ 第10回：データの収集と入力④ 第11回：データの収集と入力⑤ 第12回：データの整理と仮分析① 第13回：データの整理と仮分析② 第14回：データの整理と仮分析③ 第15回：データの分析① 第16回：データの分析② 第17回：データの分析③ 第18回：中間発表 第19回：論文の執筆①問題 第20回：論文の執筆②問題と目的 第21回：論文の執筆③方法 第22回：論文の執筆④結果 第23回：論文の執筆⑤結果と考察 第24回：論文の執筆⑥考察と引用等 第25回：卒業論文の初稿の提出 第26回：論文の修正① 第27回：論文の修正② 第28回：卒業論文の提出 第29回：卒論発表会（ゼミ内） 第30回：卒論発表会（学科内）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究を進めていくために必要な文献や調査を自ら調べて、理解してまとめるとともに、研究計画書や論文を書き進める（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、研究計画書や論文を収集するとともに調査活動を行う（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。各回、発表者が先行研究や書籍の要約の発表、もしくは関連する映像資料やワークの提示を行い、その内容について受講生と教員が討議を行い、適宜補足の指導を行う。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度（50%）：到達目標1、3の達成度確認 卒業論文（50%）：到達目標1、2の達成度確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						

教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	心理学の研究を論文の形にまとめる。						
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどについて各自が選んだテーマについての考察を深め、卒業論文としてまとめることを目指す。進行状況に従い、随時報告、発表させ個別指導を行っていく。						
到達目標	(1) 心理学としての科学的なものの見方を行い、身近な現象について説明出来る。 (2) 自ら選んだ心理学のテーマについて研究計画を立てて研究を実施し、結果を分析することができる (3) 自ら集めたデータを分析した結果を論文の形にまとめ、他者が理解できるように発表することができる						
授業計画	第1回：研究計画とディスカッション (1) テーマの選び方 第2回：研究計画とディスカッション (2) 先行研究の読み方 第3回：研究計画とディスカッション (3) 問題の立て方 第4回：研究計画とディスカッション (4) 研究プロトコルの立て方 第5回：研究計画とディスカッション (5) 対象の選び方 第6回：研究計画とディスカッション (6) 結果の分析の仕方 第7回：調査／研究の実際 (1) 研究協力者の募集とインフォームドコンセント 第8回：調査／研究の実際 (2) 倫理的検討事項 第9回：調査／研究の実際 (3) 調査協力依頼の仕方 第10回：調査／研究の実際 (4) データの管理とまとめ方 第11回：調査／研究の実際 (5) 量的データの収集方法 第12回：調査／研究の実際 (6) 質的データの収集方法 第13回：データ解析とプレゼンテーション (1) データ整理の仕方 第14回：データ解析とプレゼンテーション (2) 記述統計 第15回：データ解析とプレゼンテーション (3) 推測統計 第16回：データ解析とプレゼンテーション (4) 結果の解釈 第17回：データ解析とプレゼンテーション (5) 先行研究との比較 第18回：データ解析とプレゼンテーション (6) 考察の仕方 第19回：論文指導 (1) 背景と目的の記述 第20回：論文指導 (2) 仮説の記述 第21回：論文指導 (3) 方法の記述 第22回：論文指導 (4) 結果の記述 第23回：論文指導 (5) 図表の書き方 第24回：論文指導 (6) 考察の記述 第25回：論文指導 (7) 先行研究との比較の記述 第26回：論文指導 (8) 社会的意義について 第27回：論文指導 (9) 今後の課題について 第28回：論文指導 (10) 振り返り 第29回：卒業研究発表会 (ゼミ内) 第30回：卒業研究発表会 (全体)						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：選んだテーマに関する先行文献を検索し、関連する研究について論文にまとめるために情報収集を行う (90分) 授業後学習：ディスカッションした内容を論文として記述していく (90分)						
授業方法	自分の研究に関連する先行研究について調べて発表し、ディスカッションを行う。重要な事項について説明を行う。						
評価基準と評価方法	論文の内容60%、討論20%、口頭試問20% 論文の内容：量的研究、質的研究を問わず、科学論文の形式を踏襲しており、社会的意義が明確であるかどうかについて、また記述が論理的であるかどうかについて評価を行う。到達目標の(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 討論：ディスカッションにおいて、心理学としての科学的なものの見方ができているのかどうかについての評価。到達目標(1)に関する到達度の評価。 口頭試問：自ら選んだテーマに関して心理学として適切に他者に伝えることができるのかどうかについての評価。到達目標の(1)(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	自発的に研究をすすめ、多くの討論を重ねながら卒業論文を完成させること						

教科書	特になし
参考書	必要に応じて紹介する。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P04060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	心理学演習で取り上げた論文などを参考に、自らの研究をすすめるための指導を行う。具体的には、研究計画（テーマ、仮説、調査・実験方法など）を作成し、それについての発表、討論を行う。後半は、研究計画にしたがって、調査・実験を行い、各自の進行状況にしたがって、個別指導をする。最後に論文を仕上げ、提出する。						
到達目標	現実の社会生活に生かせる卒業論文を作成することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、年間計画作成 第2回 文献検索（1） 第3回 文献検索（2） 第4回 研究計画の発表（1） 第5回 研究計画の発表（2） 第6回 質問紙、実験計画の作成（1） 第7回 質問紙、実験計画の作成（2） 第8回 質問紙、実験計画の発表と討論（1） 第9回 質問紙、実験計画の発表と討論（2） 第10回 調査、実験の実施（1） 第11回 調査、実験の実施（2） 第12回 調査、実験の実施（3） 第13回 データの入力と処理（1） 第14回 データの入力と処理（2） 第15回 データの入力と処理（3） 第16回 論文執筆（方法1） 第17回 論文執筆（方法2） 第18回 論文執筆（結果1） 第19回 論文執筆（結果2） 第20回 方法、結果の発表と討論（1） 第21回 方法、結果の発表と討論（2） 第22回 論文執筆（問題1） 第23回 論文執筆（問題2） 第24回 論文執筆（考察1） 第25回 論文執筆（考察2） 第26回 問題、考察の発表と討論（1） 第27回 問題、考察の発表と討論（2） 第28回 文献リストの作成 第29回 要約、資料の作成 第30回 論文の仕上げ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前後での学習：卒業論文の内容関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。（学習時間：4時間）						
授業方法	ゼミナール形式と個人指導						
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）100%						
履修上の注意	発表の際には、ゼミ人数分のレジュメを用意すること						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人コミュニケーション論						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	P42010
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解						
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーションの能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほぼ全員が顔見知りというコミュニティーでの生活から、見知らぬ人間と頻繁に出会い新しい関係を作り上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションについても考えていく。						
到達目標	(1) 対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの種類と特徴及び対応する心の働きを説明できる。【知識・理解】 (2) 日常の対面的コミュニケーション、特に非言語的な情報のやり取りを分析できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 非言語的コミュニケーションの重要性、なぜヒトは顔にこだわるのか 第2回 姿かたち—なぜ様々な顔があるのか 第3回 姿かたち—顔立ちから性格はわかるか 第4回 姿勢としぐさ—感情の伝達 第5回 姿勢としぐさ—様々なしぐさ 第6回 表情—表情とは何か 第7回 表情—笑い 第8回 情動反応 第9回 目は心の窓 第10回 視線—動物における重要性、子どもの発達と視線 第11回 対人距離、行動観察 第12回 行動観察の補足と達成度確認試験 第13回 嘘は見破れるか 第14回 印象操作—服装・髪型 第15回 会話—会話における非言語的コミュニケーションと達成度確認試験の解説 期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習： 授業内容を復習し、身近な問題に結び付けて考える(学習時間2時間)。 授業の参考書(シラバス参考書欄にあるようにWEB上で紹介)を読む(学習時間2時間)。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価 50%、試験 50% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント、質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)と(2)に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で回答する。 試験：到達目標(1)と(2)の到達度の確認。						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「非言語コミュニケーション」						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	知覚・認知心理学／認知心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の知覚・認知の特徴やしぐみについて理解する						
授業の概要	知覚と認知はどちらも「知る」機能に関わっている。人は「こころ」を通して外界を知覚し、対象を、世界を、そして自分自身を認知している。この授業では、知覚や認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	①人の感覚・知覚等の機序及びその障害について説明できる。 ②人の認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。 ③人の知覚や認知がいかに主観的なものであり、対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようにする。						
授業計画	第1講 知覚・認知心理学とは 第2講 知覚1 ～知覚の不思議～ 第3講 知覚2 ～視覚のしぐみ～ 第4講 知覚3 ～色の不思議～ 第5講 知覚4 ～三次元の世界～ 第6講 記憶1 ～自由再生の実験からわかること～ 第7講 記憶2 ～感覚記憶と短期記憶～ 第8講 記憶3 ～長期記憶～ 第9講 問題解決 ～サバイバルゲーム～ 第10講 知覚・認知の障害1 ～失認と色覚多様性～ 第11講 知覚・認知の障害2 ～認知症と記憶障害～ 第12講 知覚・認知の障害3 ～精神障害と認知～ 第13講 知覚・認知の障害4 ～認知療法～ 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。適宜、実習形式による体験学習を取り入れる。授業の最後にリアクションペーパーの記述を求める。リアクションペーパーに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー40%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容記述から授業への参加関与度を評価する。到達目標③に関する到達度の確認。 期末試験60%：到達目標①②③に関する到達度の確認。試験結果の講評は15講で行う。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	データ処理法						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	P23050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	SPSSを用いた、データの処理法の習得						
授業の概要	社会意識を質問紙によって調査し、分析するための知識を習得することが、本講義の目的である。まず、受講生が各自の調査目的にそって社会意識を概念化し、分析モデルを立て、質問紙を作成する。尺度構成の方法についても習得する。次に、サンプルの調査データ(JGSS)を、受講生自身の問題意識にそって分析し、結果をまとめる。また、多変量解析についても、JGSSデータをSPSSによって分析することを通して習得する。						
到達目標	質問紙データを適切な方法で分析、解釈、報告できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 質問紙調査の概要 第2回 質問紙調査の手順 第3回 質問項目の作成と尺度 第4回 データの入力と加工、JGSSデータについて 第5回 単純集計 第6回 グラフ 第7回 代表値とばらつき 第8回 複数回答データ 第9回 クロス集計と関連性を表す統計量 第10回 統計的推定と検定の考え方 第11回 適合度・独立性・比率の差の検定 第12回 t検定と分散分析 第13回 重回帰分析 第14回 因子分析 第15回 筆記試験とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	参考書の該当部分を予習しておく。(学習時間 2時間) 授業中の課題を各自で再度、データ分析しておく。(学習時間 2時間)						
授業方法	SPSSを用いた、実習を交えながらの講義 毎回、プリントを配布する。						
評価基準と評価方法	平常点(授業への積極的参加)30%、定期試験70%						
履修上の注意	心理学科の専門科目の「心理学調査法」を履修していることを、履修の要件とする。						
教科書							
参考書	岩井紀子・保田時男 「調査データ分析の基礎」 有斐閣						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	トラウマの心理学						
担当教員	福井 義一					科目ナンバ-	P43110
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	トラウマとトラウマが我々に対して及ぼす影響について理解する。						
授業の概要	トラウマという言葉は、現在ではすっかり市民権を得たように思われるが、我々の社会において、トラウマやその影響についての理解が進んでいるとは言えない状況である。本講義では、まずトラウマとPTSDについての概念を整理し、トラウマ概念の成立について述べる。続いて、トラウマになり得る事象とその影響について、数回に分けて講義する。さらに、トラウマ・ケアについて、伝統的な心理療法から、最新の立場まで概観する。						
到達目標	トラウマの基礎的概念を理解し、トラウマ概念の成立について説明することができる。トラウマになりやすい事象とその影響について理解し、簡単に説明することができる。トラウマ・ケアの各技法について知り、簡単に説明することができる。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 トラウマとは何か？（PTSDの診断基準）  第3回 虐待とその影響  第4回 いじめとその影響  第5回 交通事故や強盗被害  第6回 自然災害とその影響  第7回 身近なトラウマ  第8回 喪失や死別体験とその影響  第9回 トラウマと解離（1）解離概念とその成り立ち  第10回 トラウマと解離（2）解離性障害の治療  第11回 伝統的な立場によるトラウマ理解とトラウマ・ケア  第12回 新しい身体志向のトラウマ・ケア技法（1）：EMDRやTFT  第13回 新しい身体志向のトラウマ・ケア技法（2）：Somatic Experiencing（野生動物はなぜ我々より危険な目に日々遭っているのにPTSDにならないか？）  第14回 新しい身体志向のトラウマ・ケア技法（3）：自我状態療法（解離による自己の内部の分裂を癒やす）  第15回 新しい身体志向のトラウマ・ケア技法（4）：その他の技法（催眠、TRE、タッピングタッチ）</p> <p>注意：各下位のテーマは、授業の理解度や進み具合、興味関心により、順序を入れ替えたり、テーマの変更を行ったりする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	特にないが、日常生活において見聞きするニュースや、文学作品やマンガ、アニメ、映画などを見るときに、トラウマの影響について考えてほしい。						
授業方法	基本的には講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	学期末レポート80%、授業中の小レポート20%で評価する。						
履修上の注意	特になし。						
教科書	特になし。						
参考書	『トラウマの発見』森茂起著（講談社） 『身体に閉じ込められたトラウマ：ソマティック・エクスペリエンスによる最新のトラウマ・ケア』ピーター・A・ラヴィーン著（星和書店） 『自我状態療法：理論と実践』ジョン・G・ワトキンス&ヘレン・H・ワトキンス著（金剛出版）						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学A						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1202A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人が育つということ						
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。						
到達目標	1)②誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について学び、説明できるようになる【知識・理解】 2)①認知機能の発達及び感情・社会性の発達についての理解できるようになる【知識・理解】 3)③自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できるようになる【知識・理解】 ①～③は公認心理師カリキュラムにおける大項目。						
授業計画	1 オリエンテーション 発達とは 2 発達の仕組みと様相 3 乳幼児発達心理学の研究法 4 遺伝と環境 5 胎児期・新生児期 6 乳幼児期の運動発達 7 乳児期～知覚 8 乳児期～素朴物理学と素朴心理学 9 乳児期～情動・愛着の発達 10 乳児期～コミュニケーションの芽生え1 前言語期 11 乳児期～コミュニケーションの芽生え2 言語期 12 幼児期～社会性の発達 13 幼児期～表象の獲得 14 まとめと試験 15 試験の復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（1時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 5回の欠席で、受講資格を失う。 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学B						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1202B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人が育つということ						
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、児童期から高齢期の発達を中心に扱う。						
到達目標	1)②誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について学び、説明できるようになる【知識・理解】 2)①認知機能の発達及び感情・社会性の発達についての理解できるようになる【知識・理解】 3)③自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できるようになる【知識・理解】 4)④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方が得られる【知識・理解】 5)⑤高齢者の社会心理的課題及び必要な支援についての知識が得られる【知識・理解】 ①～⑤は公認心理師カリキュラムにおける大項目。						
授業計画	1 オリエンテーション これまでのおさらい 2 幼児期～言語の獲得 言語を獲得する準備 3 ことばと認知1 語彙獲得の制約 4 ことばと認知2 語用論 5 心の理論1 他者理解の発達 6 心の理論2 他者理解と抑制 7 児童期 認知発達 8 児童期 社会性発達 9 文化と発達1 多言語の言語発達 10 文化と発達2 外国の理解の発達 11 青年期 アイデンティティ 12 成人期 親になること 13 高齢期 14 まとめと試験 15 試験の復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（1時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 5回の欠席で、受講資格を失う。 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールの問い合わせは受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	適宜紹介する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	被害者支援の心理学						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	P43080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	被害者支援について学ぶ。						
授業の概要	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者が受けるストレスとその対応についても触れる。						
到達目標	(1) 被害者の心理と支援について学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか考えることができる。【態度・志向性】 (2) 被害者支援に関する具体的な事例に触れることで、実際にどのような支援が行われているのかを説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：被害者支援とは 第2回：被害者支援の歴史～被害者はどのように扱われてきたのか 第3回：被害者の抱える心理的問題～二次被害とは 第4回：被害の体験を聴く（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第5回：被害者カウンセリングの基本 第6回：トラウマとPTSD 第7回：PTSDの心理療法 第8回：質疑応答と試験① 第9回：遺族の心理的問題と対応 第10回：性暴力被害者の心理的問題と対応 第11回：虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第12回：ドメスティック・バイオレンス被害者の心理的問題と対応 第13回：援助者のストレスと対応 第14回：質疑応答と試験② 第15回：グループ発表とディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業では小グループでの発表を予定しているので、被害者支援に関する具体的な事例を調べ、発表資料を用意する（学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間90分）。						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標（1）および（2）に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標（2）に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標（1）および（2）に関する到達度の確認。  課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。中間・期末試験の講評は翌週の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。						
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	『犯罪被害者のメンタルヘルス』小西聖子（編著）誠信書房 ISBN978-4-414-40047-2						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	非行・犯罪心理学						
担当教員	中山 誠					科目ナンバ-	P43060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代の犯罪と非行について、心理学を活用して、実際に発生した事件の原因やその背景を解明する						
授業の概要	高校生が起こした2つの殺人事件を通じて、障害とその処分結果に心理学的な考察を加える 死刑判決の存置と廃止について考える 特殊詐欺について学ぶ 心理学を用いた科学捜査について学ぶ						
到達目標	新たに発生した犯罪の発生原因を推定できるようになる 犯罪の予防に関する意見を述べるができるようになる						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 我が国における警察組織、一般刑法犯の認知件数と検挙率の推移 第3回 非行少年の事例(1) 伊豆の国市事件：楽天のブログと事件に至る経緯 第4回 非行少年の事例(2) 不可解な動機 第5回 非行少年の事例(3) 豊川事件の精神鑑定の結果(障害と責任能力) 第6回 光市母子殺人事件(1) 事件の発生 第7回 光市母子殺人事件(2) 少年事件における無期懲役と死刑 第8回 光市母子殺人事件(3) 最高裁決定 第9回 死刑判決の存置と廃止についてグループワーク 第10回 非行少年の処遇に生かす心理学(家庭裁判所、少年院、少年鑑別所、児童相談所、児童自立支援施設) 第11回 特殊詐欺1 お年寄りを騙す手口と被害の状況 第12回 特殊詐欺2 騙しのテクニックと社会心理学 第13回 現代の科学捜査 ポリグラフ検査 第14回 取り調べの心理学 第15回 総まとめとふりかえり						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：各回の授業で扱う内容がシラバスに明記されているので、関連する内容の最近の報道(新聞、テレビニュースなど)を読んで、事件の発生原因や背景を理解するとともに、犯罪関連の法律や心理学用語を下調べしておく(学習時間2時間) 授業後学習：授業で配布した資料を見なおし、重要箇所を確認、整理する また、manabaにアップロードされたプレゼンテーションファイルをダウンロードして、理解度を深める(学習時間2時間)						
授業方法	講義形式 グループ討議						
評価基準と評価方法	① 試験 60% ② レポート 20% ③ グループワーク 10% ④ 新聞記事シート 10%						
履修上の注意	欠席は5回まで それ以上は期末試験を受験する資格を喪失 遅刻、早退、私語を慎むこと						
教科書	特に指定しない						
参考書	基礎から学ぶ犯罪心理学研究法 福村出版 2019年 警察白書 犯罪白書						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	福祉心理学						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ-	P32090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	福祉ニーズのある人たちに対する福祉サービスの展開における心理学の応用について						
授業の概要	福祉心理学は「福祉に関する問題を心理学的に研究する科学、あるいは福祉を必要とする人々に対して心理学的な技法を使って介入、支援を行っていく学問」と言われる(中島ほか2018, 18)。ここでは、福祉ニーズのある人たち(要支援者)の「実情を把握し、心理的なニーズ等にも配慮しながら、社会資源の活用により適切なサービスを提供する」(中島ほか2018, 19)過程に対する心理学の知見と技術の応用について学ぶ。						
到達目標	(1)制度としての福祉の理解を土台として、生活の場としての福祉現場の特徴、福祉現場において生ずる問題及びその背景を説明できる。【知識・理解】 (2)福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。【知識・理解】 (3)虐待についての基本的知識を説明できる。【知識・理解】 (4)福祉サービスの展開における多職種協働の必要性和課題を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション/導入：福祉の展開と心理支援 第2回 生活を支える心理支援 第3回 子ども家庭福祉と心理支援① 子ども家庭福祉の課題と心理支援 第4回 子ども家庭福祉と心理支援② 児童虐待に対する心理支援 第5回 高齢者福祉と心理支援① 高齢者福祉の課題と心理支援 第6回 高齢者福祉と心理支援② 認知症高齢者の心理支援 第7回 障害者福祉と心理支援① 障害者福祉の課題と心理支援 第8回 障害者福祉と心理支援② 精神障害者の心理支援 第9回 生活困窮・貧困者と心理支援 第10回 小テスト/暴力被害者と加害者の心理支援 第11回 ひきこもり・自殺予防の心理支援 第12回 権利擁護、自立と意思決定の支援 第13回 福祉サービスにおける家族支援 第14回 多職種協働の必要性和環境づくり 第15回 多職種協働のためのコミュニケーション 期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習： 2回目以降のプレパレーションペーパーはあらかじめ配付するので、テキスト(あるいは配付資料)の指定箇所、さらにその他の文献・資料を検索、参照して完成させ授業に参加する。(学習時間120分程度) テキストの該当箇所は下記の通りである。 第1回 テキスト「第1章 社会福祉の展開と心理支援」 第2回 テキスト「第2章 総論：生活を支える心理支援」 第3回 テキスト「第8章 子どもと親への心理支援の実際」 第4回 テキスト「第7章 児童虐待への心理支援の実際」 第5回 テキスト「第4章 高齢者への心理支援」 第6回 テキスト「第9章 認知症高齢者の心理支援の実際」 第7回 テキスト「第5章 障害・疾病のある人への心理支援」 第8回 テキスト「第11章 精神障害者への心理支援の実際」 第9回 テキスト「第6章 生活困窮・貧困者への心理支援」 第10回 テキスト「第3章 暴力被害者への心理支援」 第11回 テキスト「第10章 ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際」 第12回 別途、資料配付 第13回 テキスト「第12章 家族・職員への心理支援の実際」 第14回 テキスト「第13章 福祉・介護分野での多職種協働(IPW)と心理職の位置づけ」 第15回 別途、資料配付  授業後学習： リフレクションペーパー(事後課題を含む)を作成し期限までに提出する。リフレクションペーパーに対する解説を配付するので目を通し、他者(他の受講生)の視点に学ぶことが望ましい。(学習時間120分程度)						
授業方法	講義、プレパレーションペーパーの発表、ペアあるいはグループワーク、リフレクションペーパーの解説などを組み合わせる。						
評価基準と評価方法	点数の配分 ・プレパレーションペーパー、リフレクションペーパー、授業中の発言など：30% 到達目標(1)(2)(3)(4) ・小テスト：10% 到達目標(1)(2) ・期末テスト：60% 到達目標(1)(2)(3)(4)  採点基準 ・基本の押さえが不十分である6割前後 ・基本を押さええている：7割から8割まで ・発展性・独自性が認められる：8割から10割						

評価基準と評価方法	* 基準の詳細は、第1回目にルーブリックを配付して説明する。
履修上の注意	プレパレーションペーパー、リフレクションペーパー、資料類は適宜、出席者に配付する（第1回のプレパレーションペーパーは当日配布となる）。欠席者は谷川に連絡して入手すること。授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。
教科書	『福祉心理学』，中島健一（編），遠見書房，978-4-8661-6067-2
参考書	<p>『福祉臨床心理学』，園山繁樹・内田一成（編），コレール社，978-4-87637-308-6</p> <p>『福祉心理学の世界 人の成長を辿って』，中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志（編），ナカニシヤ出版，978-4-7795-1288-9</p> <p>『司法臨床の方法』，廣井亮一，金剛出版，978-4-7724-0969-8</p> <p>『児童福祉と心理臨床 児童養護施設・児童相談所などにおける心理援助の実際』，前田研史（編著），福村出版，978-4-571-42023-8</p> <p>「被虐待児の家族支援 家族再統合実践モデルと実践マニュアルの開発」，野口啓示，福村出版，978-4-571-42015-3</p> <p>『児童養護施設と被虐待児 施設内心理療法家からの提言』，森田喜治，創元社，978-4-422-11380-1</p> <p>『老年臨床心理学 老いの心に寄り添う技術』，黒川由紀子・斎藤正彦・松田修，有斐閣，978-4-641-17305-2</p> <p>『ユマニチュード入門』，本多美和子・イブ・ジネスト，ロゼット マレスコッティ，医学書院，978-4-260-02028-2</p> <p>『バリデーション』，ナオミ フェイル，筒井書房，978-4-88720-339-X</p> <p>『モンテッソーリ法と間隔伸張法を用いた痴呆性老人の機能改善のための援助』，ジェニファー A ブラッシュ，キャメロン J キャンプ，三輪書房，978-4-895901659</p> <p>『障害者心理学』，柿澤敏文（編），北大路書房，978-4762829840</p>

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学概論A／臨床心理学A						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P1201A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何かについて、代表的な理論を学ぶことを通して、その歴史的や特徴について考える。						
授業の概要	様々な臨床心理学の代表的な理論を学ぶとともに、臨床心理学の成り立ちについて理解する。そして具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学という学問の成り立ちや、特徴、基本的な概念について説明できる。【知識・理解】</li> <li>2. 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。【知識・理解】</li> <li>3. 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。【態度・志向性】</li> </ol>						
授業計画	第1回：オリエンテーション－臨床心理学とは何か 第2回：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 第3回：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 第4回：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 第5回：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 第6回：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 第7回：臨床心理学の対象②：人格障害 第8回：臨床心理学の対象③：発達障害 第9回：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 第10回：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 第11回：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 第12回：臨床心理学的アセスメント 第13回：臨床心理行為と倫理 第14回：まとめと試験 第15回：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：第1回は「臨床心理学」、第2回は「精神分析」、など）（学習時間：90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理しておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。（学習時間90分）						
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標3の達成度確認 期末試験（70%）：到達目標1、2、3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 期末試験に関しては第15回に解答例を配布するとともに解説を行う。						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	下山晴彦（編）（2009）『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房。 ISBN：978-4623054350						

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学概論B／臨床心理学B						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P1201B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。						
到達目標	(1) 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。【知識・理解】 (2) 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：オリエンテーション —臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期の心理学的特徴 第3回：乳幼児期に生じやすい心理学的問題 第4回：児童期の心理学的特徴 第5回：児童期に生じやすい心理学的問題 第6回：思春期の心理学的特徴 第7回：思春期に生じやすい心理学的問題 第8回：青年期の心理学的特徴 第9回：青年期に生じやすい心理学的問題 第10回：成人期の心理学的特徴 第11回：成人期に生じやすい心理学的問題 第12回：老年期の心理学的特徴 第13回：老年期に生じやすい心理学的問題 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するために小グループでの発表を予定している。授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心のある心理学的問題について調べ、発表資料を用意する（学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間90分）。						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	<p>評価基準と評価方法</p> <p>試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。</p> <p>発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。</p> <p>平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。</p>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。</li> <li>2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。</li> <li>3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。</li> </ol>						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						